

3.2 自然的状況

3.2.1 大気環境の状況

(1) 気象

計画地の位置する吉見町は、埼玉県中央に位置し、夏に雨が多く、冬に乾燥する太平洋側気候に属している。夏はかなりの高温となり冬はやや厳しい寒さの内陸性気候となっている。

隣接する熊谷市内では、平成 22 年には猛暑日(日最高気温 35℃以上)を 41 日観測し、平成 19 年には日最高気温 40.9 度ならびに猛暑日を 21 日観測した。

気象庁熊谷地方気象台(埼玉県熊谷市桜町 1-6-10)の平年値(昭和 56 年～平成 22 年)における気象の状況は表 3.2-1 に、平成 27 年の気象の状況は表 3.2-2 及び図 3.2-1 に示すとおりである。

平年値をみると、気圧 1,010.2hPa、年間降水量は 1,286.3mm、平均気温は 15.0℃、湿度 66%、平均風速は 2.4m/s、最多風向は北西となっている。

また、平成 27 年の気象の状況をみると、気圧 1,010.4hPa、年間降水量は 1,335.0mm、平均気温は 16.0℃、湿度 63%、平均風速は 2.5m/s、最多風向は北西となっている。

表 3.2-1 気象の状況(熊谷地方気象台、平年値)

要素	気圧 (hPa)	降水量 (mm)	気温 (℃)			湿度 (%)	風向・風速 (m/s)	
	現地平均		平均	日最高	日最低		平均	最多風向
1月	1,012.3	32.6	4.0	9.4	-0.7	54	2.9	北西
2月	1,012.1	34.6	4.7	10.2	0.0	54	3	北西
3月	1,011.8	70.5	7.9	13.5	3.1	57	3	北西
4月	1,010.6	92.9	13.6	19.5	8.4	61	2.7	北西
5月	1,008.2	111.8	18.2	23.9	13.4	66	2.4	南東
6月	1,005.7	145.4	21.7	26.4	17.8	73	2.1	東
7月	1,005.1	161.6	25.3	30.1	21.7	76	2	東
8月	1,006.5	192.6	26.8	31.9	23.0	75	2.2	東
9月	1,009.5	208.3	22.8	27.2	19.3	76	1.9	東
10月	1,013.1	146.1	17.0	21.7	13.0	70	2	北西
11月	1,014.5	59	11.2	16.4	6.7	65	2.2	西北西
12月	1,013.4	31	6.3	11.8	1.6	59	2.6	西北西
年	1,010.2	1,286.3	15.0	20.2	10.6	66	2.4	北西

資料:気象統計情報 気象庁ホームページ

表 3.2-2 気象の状況(熊谷地方気象台、平成 27 年)

要素	気圧 (hPa)	降水量 (mm)	気温 (℃)			湿度 (%)	風向・風速 (m/s)	
	現地平均		平均	日最高	日最低		平均	最多風向
1 月	1,011.5	33.0	4.7	9.9	0.4	50	3.7	北西
2 月	1,011.5	26.5	4.9	10.2	0.5	56	3.1	北西
3 月	1,012.9	53.5	9.6	15.5	4.2	51	3.0	西北西
4 月	1,013.0	81.5	14.2	19.9	8.9	65	2.2	西北西
5 月	1,005.9	37.0	21.2	27.6	15.3	52	2.6	西北西
6 月	1,004.7	240.5	22.4	27.5	18.3	70	2.4	南南東
7 月	1,005.5	246.5	26.7	31.6	22.8	75	2.1	東
8 月	1,005.9	177.5	26.7	31.4	23.4	74	2.1	東
9 月	1,008.8	277.5	22.4	26.3	19.1	74	2.0	西北西
10 月	1,011.9	22.0	17.8	22.8	13.5	60	2.2	西北西
11 月	1,017.7	118.0	13.2	17.3	9.5	72	1.9	北西
12 月	1,015.6	21.5	8.3	13.3	3.6	55	2.6	西北西
年	1,010.4	1,335.0	16.0	21.1	11.6	63	2.5	北西

資料: 気象統計情報 気象庁ホームページ

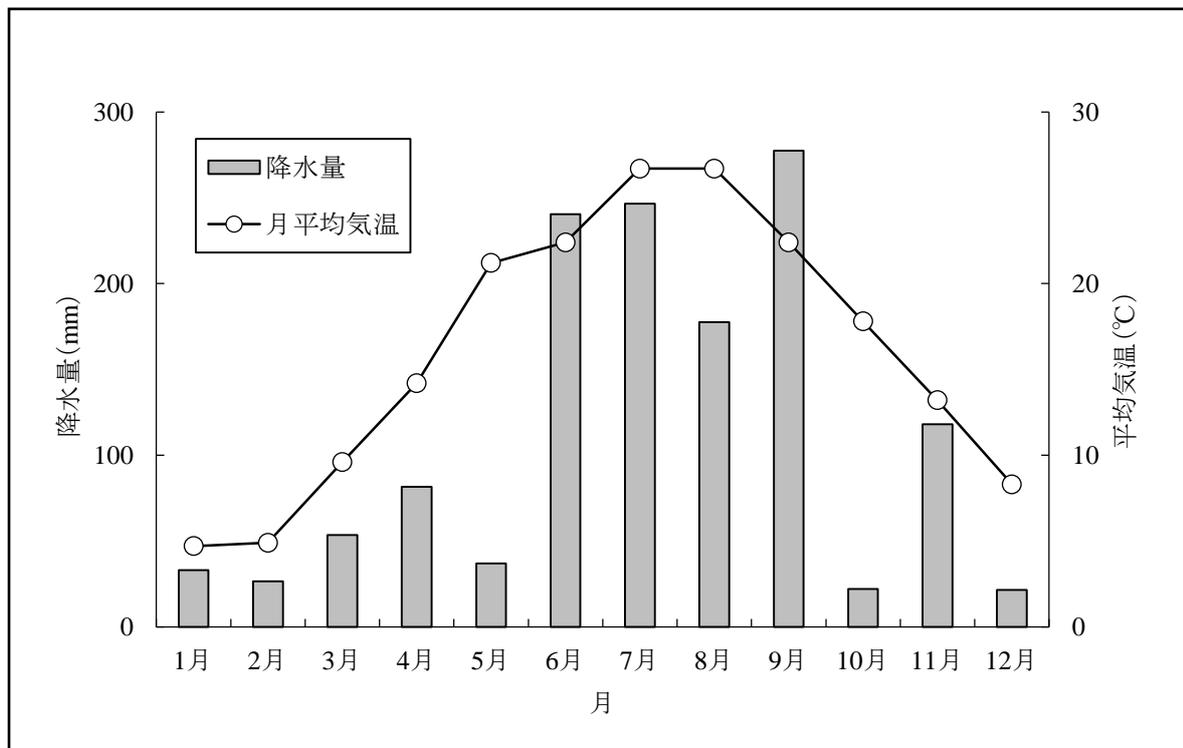


図 3.2-1 平成 27 年の月平均気温と降水量(熊谷地方気象台)

資料: 気象統計情報 気象庁ホームページ

(2) 大気質の状況

計画地周辺の大気汚染常時監視測定局は、一般環境大気測定局(以下「一般局」という。)が2測定局(東松山、鴻巣)、自動車排ガス測定局(以下「自排局」という。)が3測定局(東松山岩鼻自排、鴻巣天神自排、川島自排)である。

測定項目は表 3.2-3 に、測定局の位置は図 3.2-2 に示すとおりである。

表 3.2-3 環境大気測定項目

区分	測定局	所在地	測定項目						
			二酸化硫黄 (SO ₂)	二酸化窒素 (NO ₂)	浮遊粒子状物質 (SPM)	光化学オキシダント (Ox)	一酸化炭素 (CO)	微小粒子状物質 (PM2.5)	ダイオキシン類 (DXN)
一般局	東松山	東松山市五領町 8	—	○	○	○	—	○	○
	鴻巣	鴻巣市中央 1-1	○	○	○	○	—	○	○
自排局	東松山岩鼻自排	東松山市松山 1721-1	—	○	○	—	—	—	—
	鴻巣天神自排	鴻巣市天神 1-1-28	○	○	○	—	—	○	—
	川島自排	川島町かわじま 2-19	—	○	○	—	—	—	—

- 1) 東松山局:五領町近隣公園
- 2) 鴻巣局:鴻巣市役所
- 3) 東松山岩鼻自排局:岩鼻運動公園
- 4) 鴻巣天神局:県央広域消防本部鴻巣天神分署
- 5) 川島自排局:かわじま公園

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ 及び
平成 27 年度ダイオキシン類大気常時監視結果について 埼玉県ホームページ



図 3.2-2 大気汚染常時監視測定局の位置

資料: 埼玉県の大気状況 埼玉県ホームページ 及び 国土地理院 1/25,000 地形図

(a) 二酸化硫黄

一般局の鴻巣局及び自排局の鴻巣天神局の平成 27 年度環境基準適合状況は表 3.2-4 に示すとおりで、環境基準に適合している。鴻巣局の年平均値は 0.001ppm であり、県全域における一般局の年平均値は 0.001ppm であった。鴻巣天神自排局の年平均値は 0.001ppm であり、県全域における自排局の年平均値は 0.001ppm であった。

経年変化の状況は図 3.2-3 に示すとおりで、一般局は横ばい傾向、自排局は減少傾向にある。鴻巣局は横ばい傾向であり、鴻巣天神局は平成 25 年度に減少した状況で推移している。

表 3.2-4 二酸化硫黄に係る環境基準適合状況(平成 27 年度)

区分	測定局	年平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	2日連続の 有無	環境基準	
					長期的評価	短期的評価
一般局	鴻巣	0.001	0.002	無	○	○
自排局	鴻巣天神	0.001	0.002	無	○	○

環境基準:1時間値の1日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ1時間値が 0.1ppm 以下であること。
 短期的評価:「1時間値が 0.1ppm 以下で、かつ、「日平均値が 0.04ppm 以下であること」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。
 長期的評価:「日平均値の2%除外値が 0.04ppm 以下で、かつ、日平均値が 0.04ppm を超えた日が2日以上連続していないこと」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ

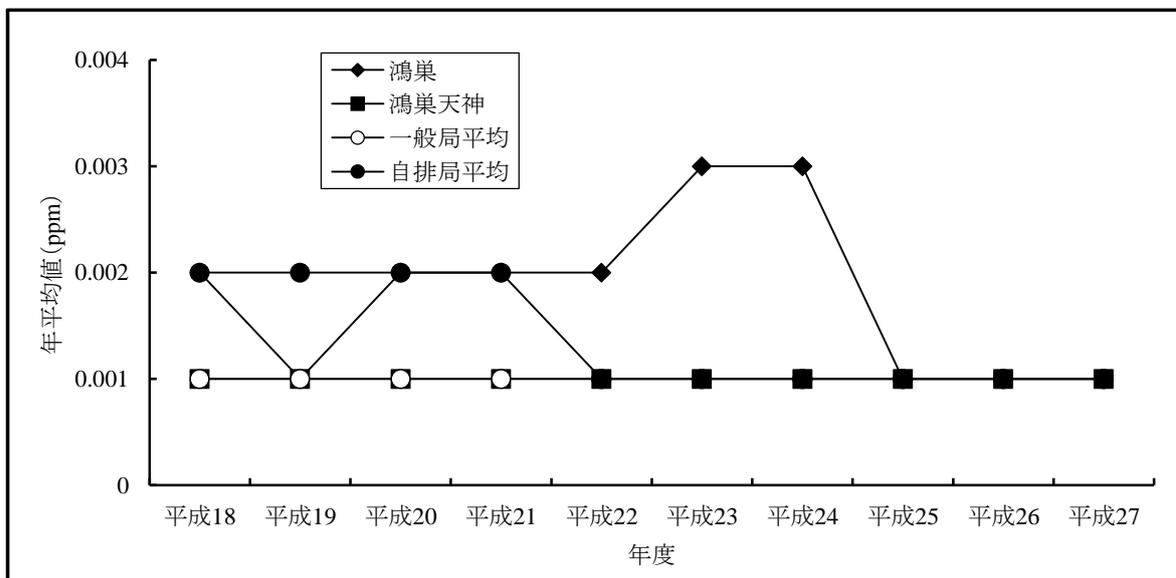


図 3.2-3 二酸化硫黄濃度の経年変化

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ 及び 埼玉県の大気汚染状況常時監視システム 埼玉県ホームページ

(b) 二酸化窒素

一般局の東松山局、鴻巣局及び自排局の東松山岩鼻局、鴻巣天神局、川島局の平成 27 年度環境基準適合状況は表 3.2-5 に示すとおりで、環境基準に適合している。東松山局の年平均値は 0.013ppm、鴻巣局では 0.012ppm、であり、県全域における一般局の年平均値は 0.013ppm であった。東松山岩鼻自排局の年平均値は 0.016ppm、鴻巣天神自排局では 0.020ppm、川島自排局では 0.016ppm であり、県全域における自排局の年平均値は 0.021ppm であった。

経年変化の状況は図 3.2-4 に示すとおりで、過去 10 年間に於ける一般局及び自排局の年平均値はともに減少傾向にある。

表 3.2-5 二酸化窒素に係る環境基準適合状況(平成 27 年度)

区分	測定局	年平均値 (ppm)	日平均値の年間 98%値 (ppm)	環境基準
一般局	東松山	0.013	0.027	○
	鴻巣	0.012	0.026	○
自排局	東松山岩鼻	0.016	0.029	○
	鴻巣天神	0.020	0.034	○
	川島	0.016	0.032	○

環境基準: 1時間値の1日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること。
 評価: 「年間の日平均値の 98%値が 0.06ppm 以下に維持されること」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ

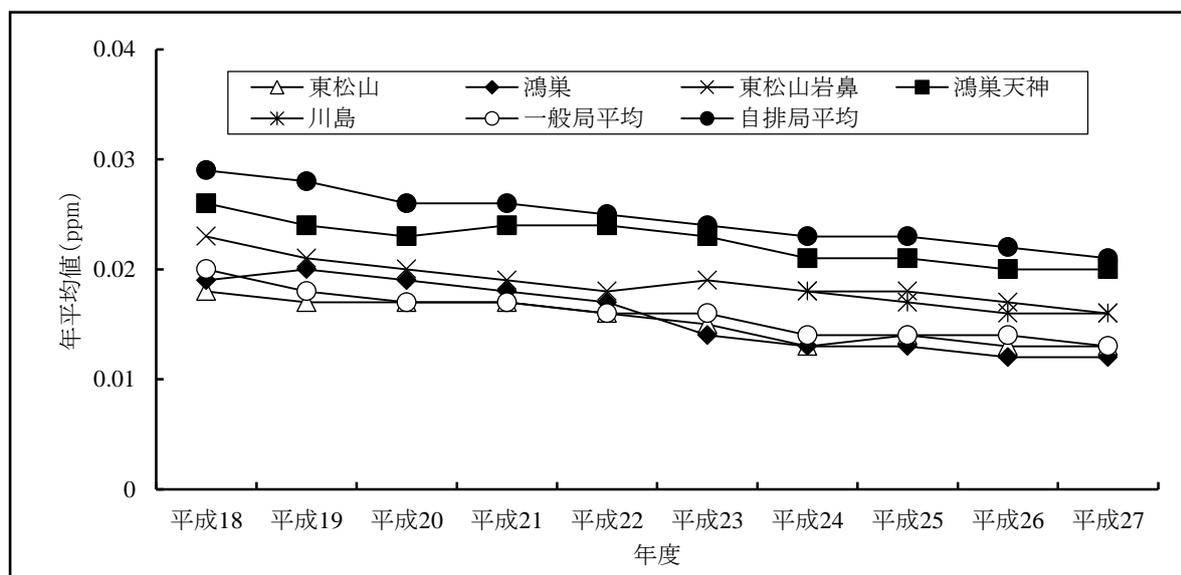


図 3.2-4 二酸化窒素濃度経年変化

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ 及び 埼玉県の大気汚染状況常時監視システム 埼玉県ホームページ

(c) 浮遊粒子状物質 (SPM)

一般局の東松山局、鴻巣局及び自排局の東松山岩鼻局、鴻巣天神局、川島局の平成 27 年度環境基準適合状況は表 3.2-6 に示すとおりで、環境基準に適合している。東松山局の年平均値は $0.020\text{mg}/\text{m}^3$ 、鴻巣局では $0.021\text{mg}/\text{m}^3$ であり、県全域における一般局の年平均値は $0.020\text{mg}/\text{m}^3$ であった。東松山岩鼻自排局の年平均値は $0.021\text{mg}/\text{m}^3$ 、鴻巣天神自排局では $0.019\text{mg}/\text{m}^3$ 、川島自排局では $0.022\text{mg}/\text{m}^3$ であり、県全域における自排局の年平均値は $0.021\text{mg}/\text{m}^3$ であった。経年変化の状況は図 3.2-5 のとおりで、一般局及び自排局を前年と比較すると横ばいの傾向を示している。

表 3.2-6 浮遊粒子状物質に係る環境基準適合状況 (平成 27 年度)

区分	測定局	年平均値 (mg/m^3)	日平均値の 2%除外値 (mg/m^3)	2日連続の 有無	環境基準	
					長期的評価	短期的評価
一般局	東松山	0.020	0.045	無	○	○
	鴻巣	0.021	0.050	無	○	○
自排局	東松山岩鼻	0.021	0.047	無	○	○
	鴻巣天神	0.019	0.046	無	○	○
	川島	0.022	0.051	無	○	○

環境基準: 1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。
 短期的評価: 「1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下で、かつ、日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。
 長期的評価: 「日平均値の2%除外値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下で、かつ、日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続していないこと」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ

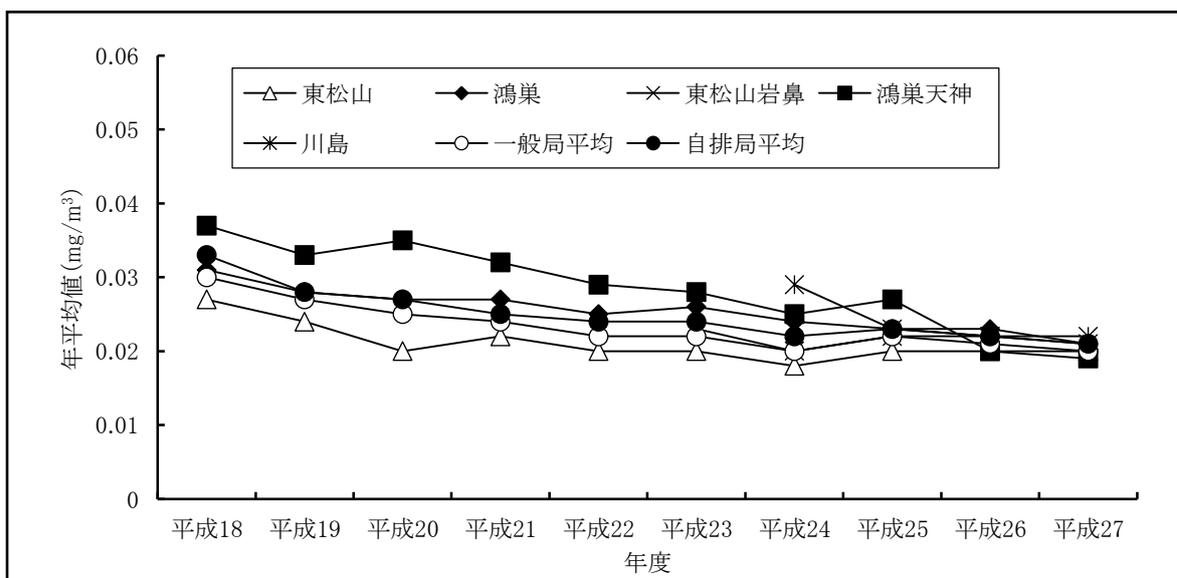


図 3.2-5 浮遊粒子状物質濃度経年変化

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ 及び 埼玉県の大気汚染状況常時監視システム 埼玉県ホームページ

(d) 光化学オキシダント

一般局の東松山局及び鴻巣局の平成 27 年度環境基準適合状況は表 3.2-7 に示すとおりで、環境基準に適合していない。東松山局の年平均値は 0.034ppm、鴻巣局では 0.035ppm であった。光化学オキシダントは県内全域で環境基準を達成しておらず、県全域（一般局のみ測定）における年平均値は 0.033ppm であった。経年変化の状況は図 3.2-6 のとおりで、県全域の年平均値は平成 23 年以降ゆるやかな増加傾向を示している。

なお、平成 27 年度の光化学スモッグ注意報の発令日数は県全域で 16 日であった。

表 3.2-7 光化学オキシダントに係る環境基準適合状況（平成 27 年度）

区分	測定局	年平均値 (ppm)	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた 時間数	昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の 時間数	環境基準
一般局	東松山	0.034	558	10	×
	鴻巣	0.035	581	14	×

環境基準：1時間値が 0.06ppm 以下であること。
 評価：「昼間（午前 5 時～午後 8 時）の時間帯において 1 時間値が 0.06ppm 以下に維持されること」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。

資料：平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ 及び 埼玉県の大気汚染状況常時監視システム 埼玉県ホームページ

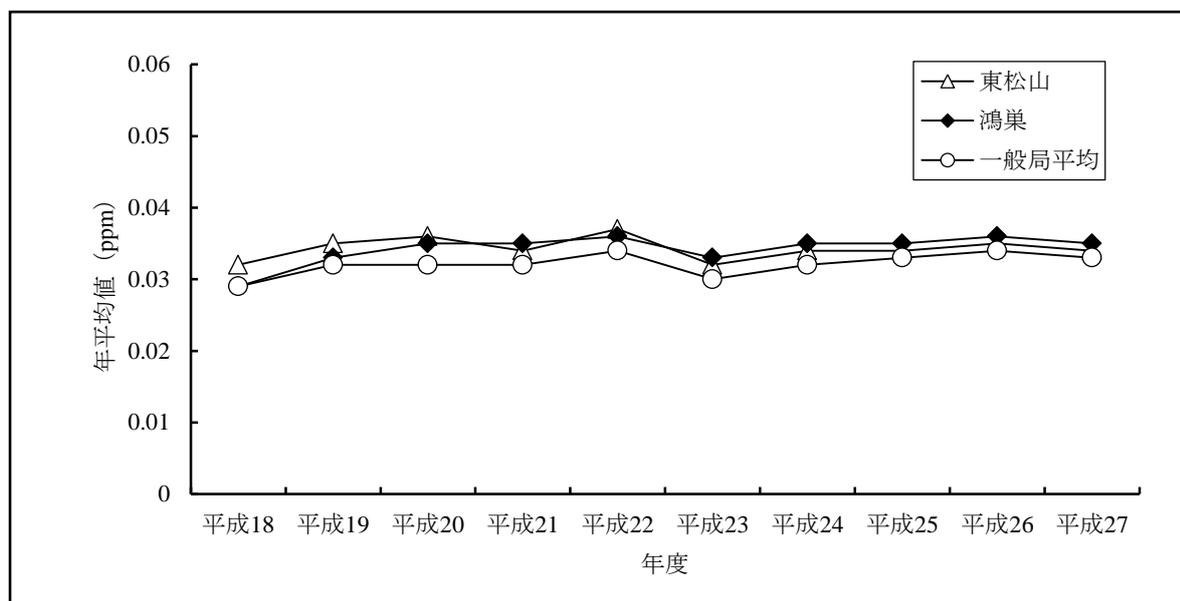


図 3.2-6 光化学オキシダント濃度経年変化

資料：平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ 及び 埼玉県の大気汚染状況常時監視システム 埼玉県ホームページ

(e) 一酸化炭素

東松山局、鴻巣局、東松山岩鼻自排局、鴻巣天神自排局及び川島自排局の各局では、一酸化炭素の測定は行われていない。

(f) 微小粒子状物質 (PM2.5)

一般局の東松山局、鴻巣局及び自排局の鴻巣天神局の平成 27 年度環境基準適合状況は表 3.2-8 に示すとおりで、3 局とも環境基準に適合している。東松山局の年平均値は $13.4\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、鴻巣局では $13.1\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、鴻巣天神局では $13.5\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。平成 27 年度は、一般局のうち 29 局 (有効局数 35 局)、自排局のうち 8 局 (有効局数 11 局) で環境基準を達成した。経年変化の状況は図 3.2-7 に示すとおりで、一般局、自排局とも年平均値は前年度に比べ減少した。

表 3.2-8 微小粒子状物質 (PM2.5) に係る環境基準達成状況 (平成 27 年度)

区分	測定局	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値の 年間 98% 値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	長期基準評価	短期基準評価	環境基準
一般局	東松山	13.4	30.0	○	○	○
	鴻巣	13.1	30.4	○	○	○
自排局	鴻巣天神	13.5	30.3	○	○	○

環境基準: 1 年平均値が、 $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
 短期基準評価: 「年間の 1 日平均値のうち、低い方から 98% に相当する値 (98% 値) が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。
 長期基準評価: 「年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」、を満足した場合は「○」、満足しない場合は「×」。

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ

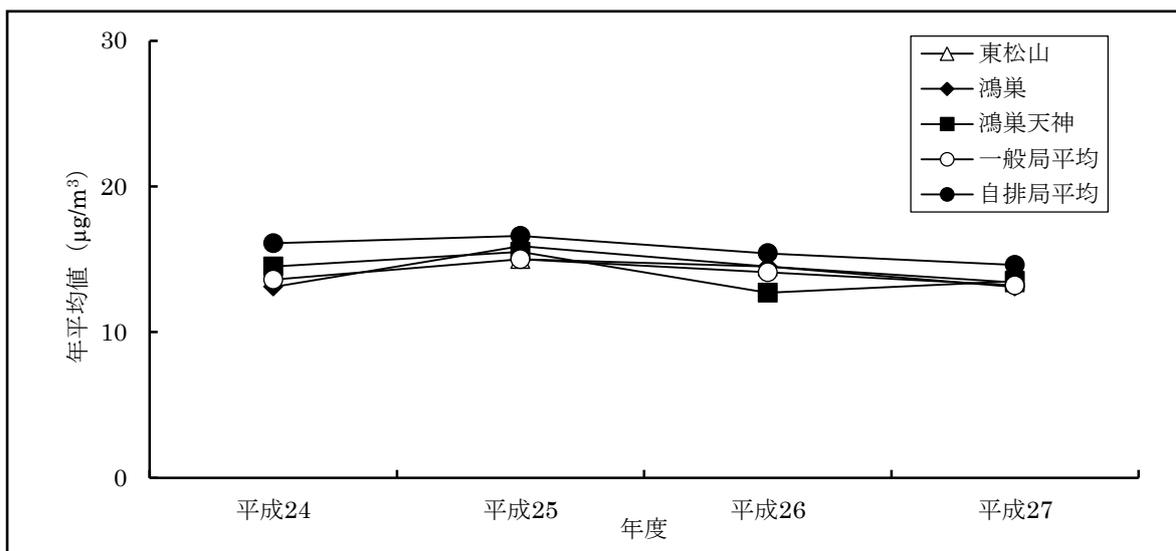


図 3.2-7 微小粒子状物質 (PM2.5) 濃度経年変化

資料:平成 27 年度大気汚染物質の常時監視測定結果について 埼玉県ホームページ 及び 埼玉県の大気汚染状況常時監視システム 埼玉県ホームページ

(g) ダイオキシン類

一般環境の測定地点である東松山局及び鴻巣局の平成 27 年度環境基準適合状況は表 3.2-9 に示すとおりで、環境基準に適合している。東松山局の年平均値は 0.038pg-TEQ/m^3 、鴻巣局では 0.071pg-TEQ/m^3 であった。平成 27 年度は、すべての測定地点 (23 箇所) で環境基準を達成した。経年変化の状況は図 3.2-8 に示すとおりで、過去 10 年間の一般環境平均及び全地点平均は減少傾向にあるが、鴻巣局は一般環境平均より高い濃度の横ばい状態で推移している。

表 3.2-9 ダイオキシン類に係る環境基準適合状況 (平成 27 年度)

地域分類	測定地点	ダイオキシン濃度 (pg-TEQ/m ³)					環境基準
		第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	平均値	
一般環境	東松山 (五領町近隣公園)	0.021	0.066	0.021	0.043	0.038	○
	鴻巣局 (鴻巣市役所)	—	0.078	—	0.063	0.071	○

環境基準：1 年平均値が 0.6pg-TEQ/m^3 以下であること。

1) ダイオキシン類濃度は、2, 3, 7, 8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値。

資料：平成 27 年度ダイオキシン類大気常時監視結果について 埼玉県ホームページ

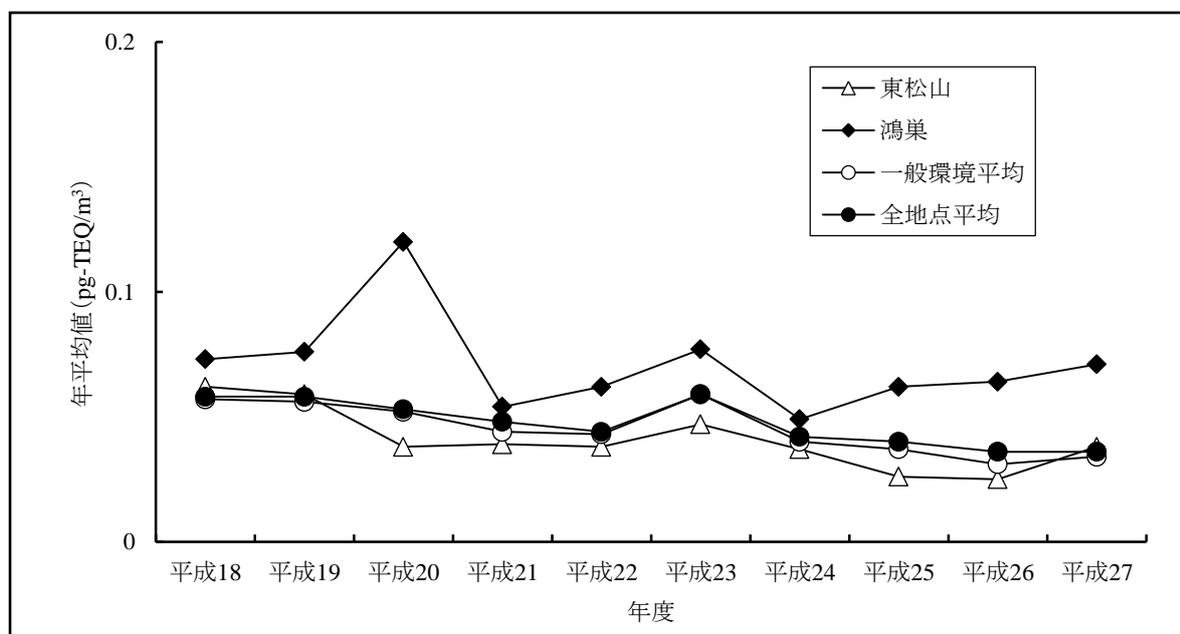


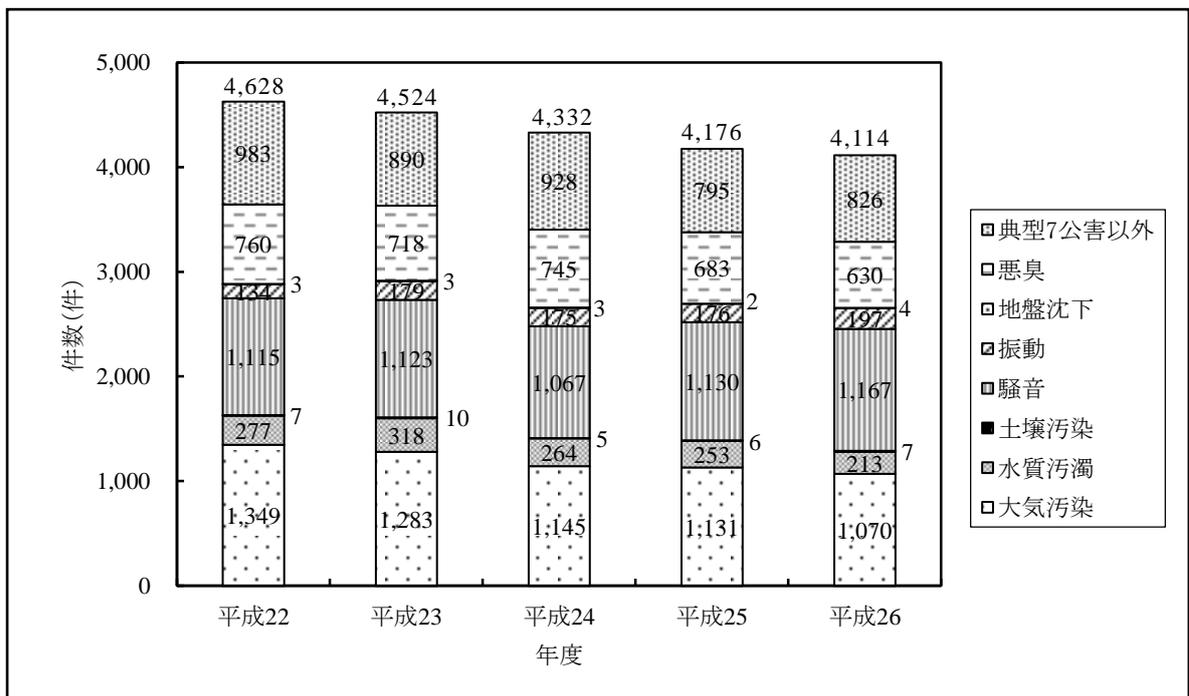
図 3.2-8 ダイオキシン類濃度経年変化

資料：平成 18 年度～平成 27 年度ダイオキシン類大気常時監視結果について 埼玉県ホームページ

(h) 公害に関する苦情及び大気汚染の苦情

埼玉県における公害に関する苦情件数の推移は図 3.2-9 のとおりで、平成 26 年度の総件数は 4,114 件であり、平成 22 年度から約 500 件減少している。大気汚染、水質汚濁、悪臭等は減少傾向であるが、騒音、振動は横ばいとなっている。

平成 26 年度における埼玉県内の大気汚染に関する苦情は 1,070 件で公害苦情全体の約 26%となっている(図 3.2-9)。大気汚染の発生源別苦情件数は表 3.2-10 に示すとおりで、野焼きが 796 件(約 74%)、次いで工場・事業場の 143 件(約 13%)となっている。



- 1) 大気汚染: 野焼き等。
- 2) 典型 7 公害以外: 廃棄物投棄等。

資料:平成 27 年版埼玉県環境白書 埼玉県ページホーム 及び
平成 26 年度公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局

図 3.2-9 埼玉県の公害苦情件数の推移

表 3.2-10 埼玉県内における大気汚染に関する発生源別の苦情件数

発生源	工場・事業場	工事・建設業	交通機関	飲食店・カラオケ	家庭生活	野焼き	その他	合計
大気汚染	143	58	6	2	15	796	50	1,070

資料:平成 26 年度公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局

(3) 騒音・振動

(a) 自動車交通騒音・振動

計画地周辺の平成 26 年度の自動車交通騒音の環境基準適合状況及び道路交通振動の要請限度適合状況は表 3.2-11 及び表 3.2-12 に、また、調査地点は図 3.2-10 に示すとおりである。騒音レベルは 5 地点で評価されており、3 地点が適合していた。振動レベルは 2 地点で評価されており、2 地点とも適合していた。

埼玉県の平成 26 年度における騒音レベルの点的評価の結果は、208 測定地点のうち 120 地点(57.7%)が昼夜ともに基準を達成していた。また、振動レベルは 66 測定地点の全地点において昼夜を通して要請限度の超過は見られなかった。

表 3.2-11 自動車交通騒音の環境基準適合状況(点的評価)

地点番号	路線名	測定地点の住所	環境基準類型	車線数合計	幹線道路の近接空間	等価騒音レベル (単位:デシベル)				環境基準適合状況
						昼間	環境基準達成	夜間	環境基準達成	
1	一般国道 254 号	東松山市大字上野本	B	4	○	72	×	70	×	×
2	一般国道 17 号	北本市石戸宿	B	2	○	67	○	60	○	○
3	県道東松山鴻巣線	東松山市大字柏崎	B	2	○	62	○	60	○	○
4	県道東松山鴻巣線	鴻巣市氷川町 2	B	2	○	68	○	67	×	×
5	県道東松山桶川線	北本市石戸	B	2	○	67	○	62	○	○

1) 幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準:昼間 70 デシベル, 夜間 65 デシベル

2) 「幹線道路の近接空間」の欄の○は、測定地点が当該空間に含まれることを示す。

資料:平成 26 年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果 埼玉県ホームページ

表 3.2-12 道路交通振動の要請限度適合状況

地点番号	路線名	測定地点の住所	区域区分	車線数	振動レベル (単位:デシベル)		要請限度適合状況
					昼間	夜間	
1	一般国道 254 号	東松山市大字上野本	1	4	54	52	○
3	県道東松山鴻巣線	東松山市大字柏崎	1	2	36	34	○

1) 第 1 種区域の要請限度:昼間 65 デシベル, 夜間 60 デシベル

2) 第 2 種区域の要請限度:昼間 70 デシベル, 夜間 65 デシベル

資料:平成 26 年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果 埼玉県ホームページ



図 3.2-10 自動車交通騒音及び道路交通振動調査地点

資料:平成 26 年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果 埼玉県 及び 国土地理院 1/25,000 地形図

(b) 騒音・振動に関する苦情

平成 26 年度における埼玉県内の騒音に関する苦情は 1,167 件で公害苦情全体の約 28% であり(図 3.2-9、3-71 ページ参照)、発生源別苦情件数は表 3.2-13 に示すとおりで、工場・事業場が 342 件(約 29%)、次いで工事・建設作業の 306 件(約 26%)となっている。

振動の苦情は 197 件で公害苦情全体の約 5% であり(図 3.2-9、3-71 ページ参照)、発生源別苦情件数は表 3.2-14 に示すとおりで、工事・建設作業が 127 件(約 64%)、次いで工場・事業場の 48 件(約 24%)となっている。

表 3.2-13 埼玉県内における騒音に関する発生源別の苦情件数

発生源	工場・事業場	工事・建設業	交通機関	飲食店・カラオケ	家庭生活	野焼き	その他	合計
騒音	342	306	51	128	73	0	267	1,167

資料:平成 26 年度公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局

表 3.2-14 埼玉県内における振動に関する発生源別の苦情件数

発生源	工場・事業場	工事・建設業	交通機関	飲食店・カラオケ	家庭生活	野焼き	その他	合計
振動	48	127	11	0	1	0	10	197

資料:平成 26 年度公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局

(4) 悪臭

計画地周辺では悪臭に関する調査は行われていない。

なお、平成 26 年度における埼玉県内の悪臭に関する苦情は 630 件で公害苦情全体の約 15% であり(図 3.2-9、3-71 ページ参照)、発生源別苦情の状況は表 3.2-15 に示すとおり、工場・事業場が 136 件(約 22%)、次いで野焼きの 124 件(約 20%)となっている。

表 3.2-15 埼玉県内における悪臭に関する発生源別の苦情件数

発生源	工場・事業場	工事・建設業	交通機関	飲食店・カラオケ	家庭生活	野焼き	その他	合計
悪臭	136	10	2	32	68	124	258	630

資料:平成 26 年度公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局

3.2.2 水環境の状況

(1) 水象

計画地周辺の一級河川としては、計画地の東約 800m の距離に荒川が北から南へ流下し、計画地の南西約 300m の距離に市野川が北西から南東へ流下している(河川分布は図 3.2-11 参照)。荒川水系である市野川は大里郡寄居町牟礼付近に源を発し、計画地南西側を南東方向へ流れ、川島町東野付近で荒川右岸に合流する。

計画地近傍における農業用水路の状況は図 3.2-12 に示すとおりであり、計画地周辺は田・畑が広がり農業用の水路が多数分布する。

(2) 水質の状況

(a) 河川

関係市町を流れる荒川及び市野川の公共用水域測定地点における計画地周辺の水質測定地点の概要は表 3.2-16 に、水質測定位置は図 3.2-11 示すとおりである。

平成 27 年度の健康項目の測定結果は、44 河川全 94 地点のうち、測定された 44 河川 93 地点で環境基準に適合している(公表:平成 28 年 7 月 21 日 埼玉県ホームページ、ただし年度平均値は未公表)。平成 22 年度～平成 26 年度における徒歩橋の健康項目の測定結果は表 3.2-17 に示すとおりであり、すべての年度で環境基準に適合していた。

平成 23 年度～平成 27 年度における御成橋と徒歩橋の生活項目の調査は表 3.2-18 及び表 3.2-19 に示すとおりであり、御成橋(荒川)の大腸菌群数がすべての年度で環境基準を超過していた。

表 3.2-16 水質測定地点の概要

河川名	測定地点名	所在地	測定対象	環境基準類型		基準点	
						一般	生物
荒川	御成橋	鴻巣市	生活項目	A	生物 B	—	—
		鴻巣市と東松山市を結ぶ主要県道との交差点。上流で武蔵水路が左岸から合流し、下流で市野川が右岸から合流する。この付近の川幅は約 2.5km あり、日本で最大の川幅となっている。					
市野川	徒歩橋	吉見町	健康項目	C	生物 B	○	○
		川島町	生活項目				
		鴻巣市と川島町を結ぶ県道との交差点。上流で滑川が左岸から合流した後、市野川水循環センターの下水処理水が合流する。周辺は水稲やイチゴの産地でゴルフ場も立地している。					

1) 基準点の欄の○印は環境基準点を示す。

2) 類型は平成 27 年度におけるものを記載している(類型は平成 26 年度も同じ)。

資料:平成 27 年度公共用水域の水質測定結果について 埼玉県ホームページ 及び公共用水域の各水質測定地点の概況 埼玉県ホームページ

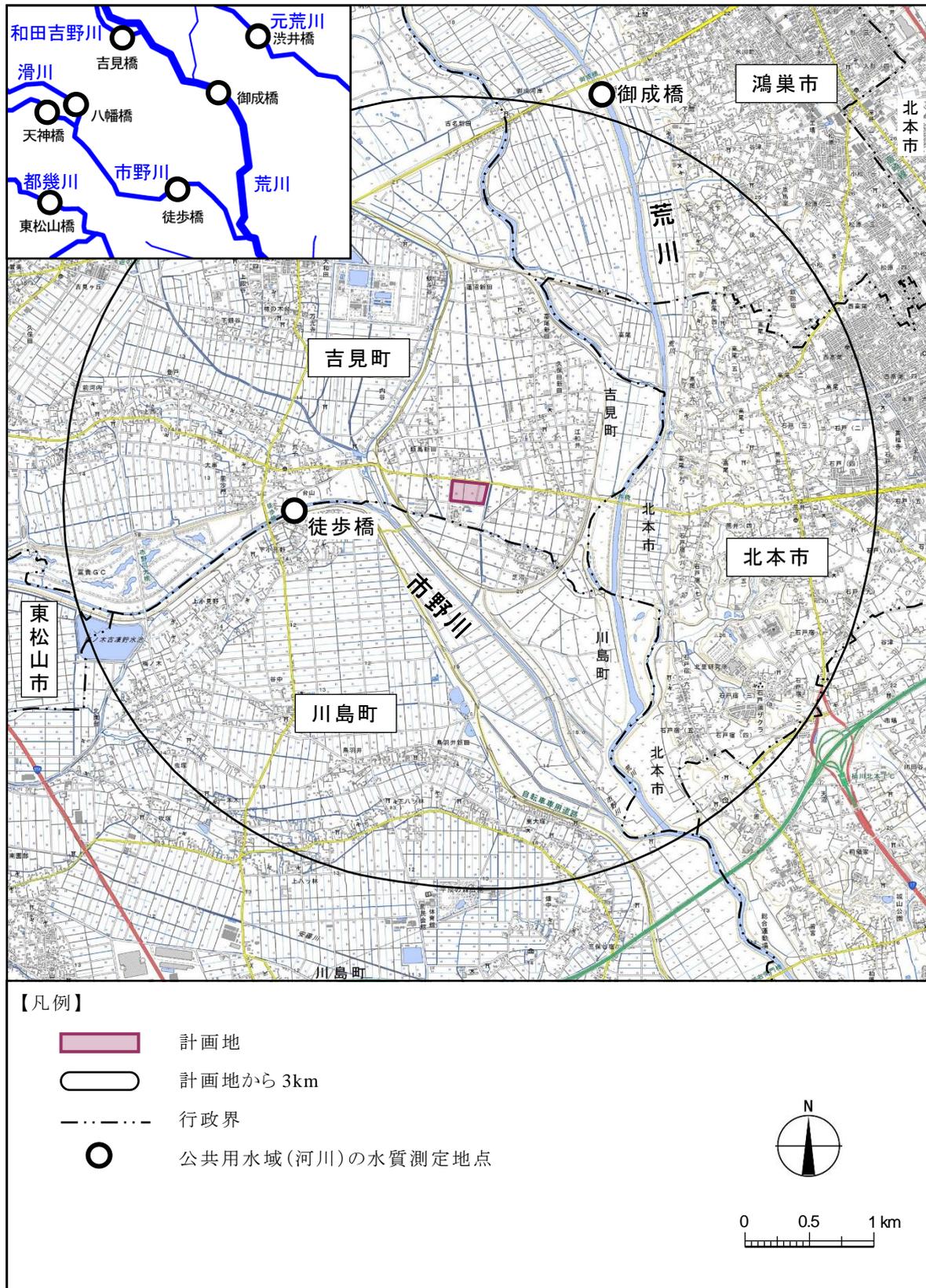


図 3.2-11 公共用水域(河川)の水質測定地点

資料:平成 27 年度公共用水域の水質測定結果について 埼玉県 及び 国土地理院 1/25,000 地形図

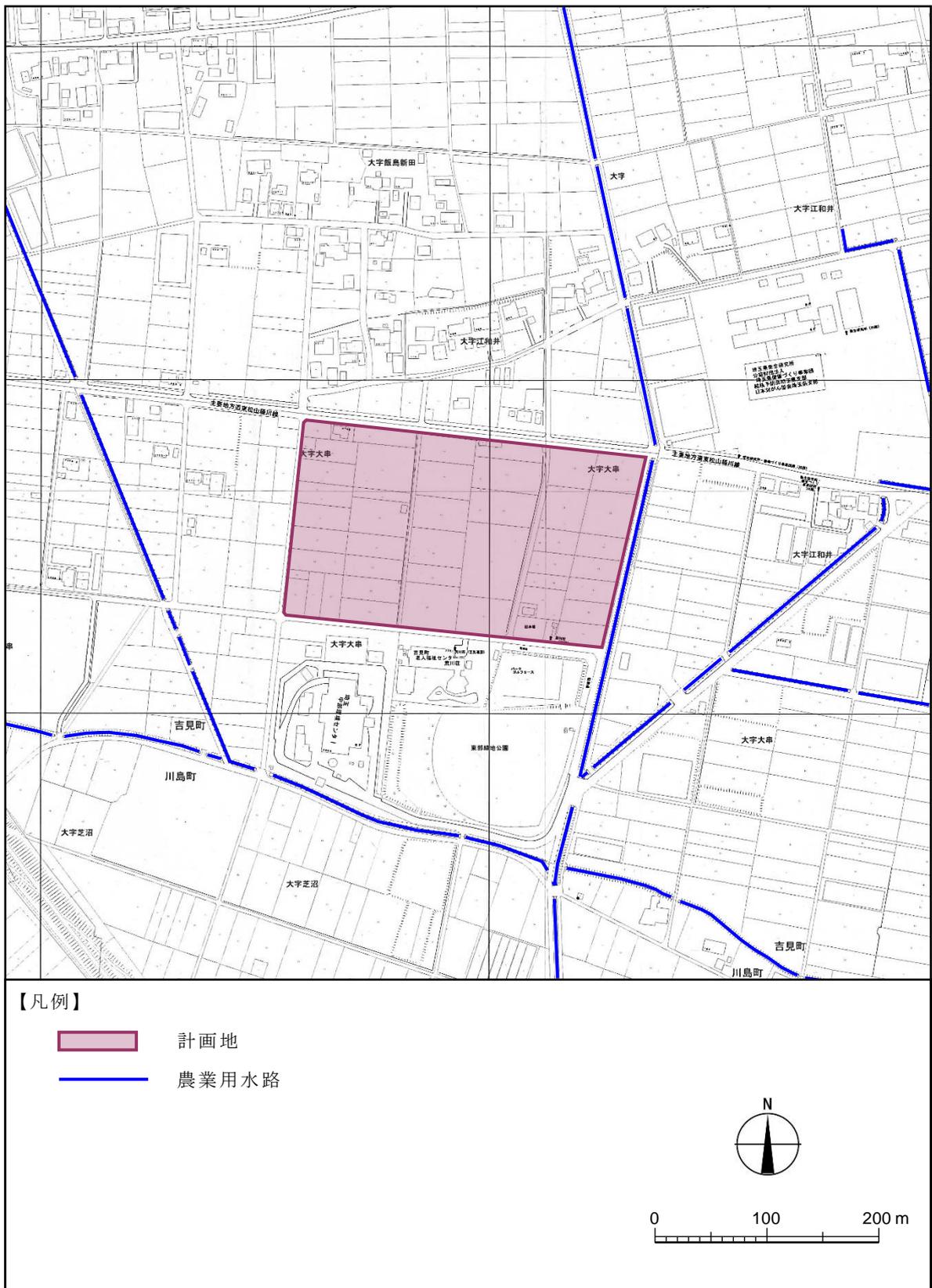


図 3.2-12 農業用水路の状況

資料:敷界確認図 1/2,500 平成 28 年 10 月 吉見町まち整備課

表 3.2-17 徒歩橋における健康項目の水質測定結果

単位:mg/L

項目	測定結果					環境基準
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	
カドミウム	<0.001	<0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.003 以下
全シアン	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと。
鉛	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下
ヒ素	<0.001	0.001	0.001	0.001	<0.001	0.01 以下
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
アルキル水銀	—	—	—	—	—	検出されないこと。
PCB	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸 性窒素	3.1	2.9	2.7	2.4	2.4	10 以下
ふっ素	0.08	0.08	0.08	0.11	0.12	0.8 以下
ほう素	0.07	0.08	0.08	0.06	0.06	1 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

資料:平成 22 年度～平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 埼玉県ホームページ

表 3.2-18 御成橋における生活項目の水質測定結果

項目	測定結果					環境基準
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	
水素イオン濃度 (pH)	7.6	7.8	7.9	7.8	7.7	6.5 以上 8.5 以下
生物学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	0.6	0.8	1.0	0.8	0.8	2mg/L 以下
75%値	0.8	1.1	1.3	0.9	—	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	15	12	23	8	10	25mg/L 以下
溶存酸素量 (DO) (mg/L)	10	10	9.9	10	10	7.5mg/L 以上
大腸菌群数 (MPN/100mL)	5,600	9,800	60,000	17,000	40,000	1,000MPN/100mL 以下
全窒素 (mg/L)	2.1	2.0	1.9	1.7	1.9	—
全りん (mg/L)	0.084	0.081	0.079	0.064	0.080	—
全亜鉛 (mg/L)	—	—	—	—	—	0.03mg/L 以下
ノニルフェノール (mg/L)	—	—	—	—	—	0.002mg/L 以下
直鎖アルキルベンゼンスル ホン酸及びその塩 (mg/L)	—	—	—	—	—	0.05mg/L 以下

1) 網掛けは環境基準を超過したものを示す。

資料: 平成 23 年度～平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 埼玉県ホームページ 及び
平成 27 年度公共用水域の水質測定結果について 埼玉県ホームページ

表 3.2-19 徒歩橋における生活項目の水質測定結果

項目	測定結果					環境基準
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	
水素イオン濃度 (pH)	7.9	7.8	8.2	8.3	8.0	6.5 以上 8.5 以下
生物学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	2.8	2.6	3.6	4.7	2.8	5mg/L 以下
75%値	3.9	2.7	3.5	4.6	—	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	11	13	17	18	11	50mg/L 以下
溶存酸素量 (DO) (mg/L)	10	11	12	10	10	5mg/L 以上
大腸菌群数 (MPN/100mL)	—	—	—	—	—	—
全窒素 (mg/L)	4.6	3.9	4.1	4.9	3.5	—
全りん (mg/L)	0.28	0.25	0.28	0.29	0.23	—
全亜鉛 (mg/L)	0.015	0.018	0.017	0.017	0.015	0.03mg/L 以下
ノニルフェノール (mg/L)	—	—	0.00007	<0.00006	0.00006	0.002mg/L 以下
直鎖アルキルベンゼンスル ホン酸及びその塩 (mg/L)	—	—	—	0.0056	0.0034	0.05mg/L 以下

資料: 平成 23 年度～平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 埼玉県ホームページ 及び
平成 27 年度公共用水域の水質測定結果について 埼玉県ホームページ

(b) 地下水

計画地の位置する吉見町の平成 26 年度地下水の水質測定結果は表 3.2-20 及び表 3.2-21 に示すとおりである。

概況調査(和名地区)では環境基準を達成していた。汚染井戸周辺地区調査(江和井地区)においては、ひ素が環境基準を超過した。継続調査では、今泉、久保田、丸貫、地頭方、前河内、江和井、下銀谷でひ素が環境基準を超過した。

表 3.2-20 地下水の概況調査及び汚染井戸周辺地区調査(平成 26 年度)

項目	調査区分		環境基準(mg/L)
	概況調査	汚染井戸 周辺地区調査	
	吉見町地区名	吉見町地区名	
	和名	江和井	
カドミウム	<0.0005	—	0.003 以下
全シアン	<0.1	—	検出されないこと。
鉛	<0.005	—	0.01 以下
六価クロム	<0.01	—	0.05 以下
ひ素	<0.005	0.027	0.01 以下
総水銀	<0.0005	—	0.0005 以下
アルキル水銀	—	—	検出されないこと。
PCB	<0.0005	—	検出されないこと。
ジクロロメタン	<0.002	—	0.02 以下
四塩化炭素	<0.0002	—	0.002 以下
塩化ビニルモノマー	<0.0002	—	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	—	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	—	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	<0.004	—	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	—	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	—	0.006 以下
トリクロロエチレン	<0.002	—	0.01 以下
テトラクロロエチレン	<0.0005	—	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	—	0.002 以下
チウラム	<0.0006	—	0.006 以下
シマジン	<0.0003	—	0.003 以下
チオベンカルブ	<0.002	—	0.02 以下
ベンゼン	<0.001	—	0.01 以下
セレン	<0.002	—	0.01 以下
亜硝酸性窒素	<0.005	—	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.02	—	10 以下
ふっ素	<0.08	—	0.8 以下
ほう素	0.02	—	1 以下
1,4-ジオキサン	<0.005	—	0.05 以下

1) 網掛けは環境基準を超過したものを示す。

資料:平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 埼玉県ホームページ

表 3.2-21 地下水の継続調査結果(平成 26 年度)

測定地区名		測定項目及び環境基準 (mg/L)		
		ひ素	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素
吉見町地区名	今泉	0.046	—	—
	久保田	0.014	—	—
	丸貫	0.019	—	—
	地頭方	0.020	—	—
	前河内	0.039	—	—
	江和井	0.027	—	—
	下銀谷	0.054	—	—
	長谷	—	<0.005	7.6
環境基準		0.01 以下	—	10 以下

1) 網掛けは環境基準を超過したものを示す。

資料:平成 26 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果 埼玉県ホームページ

(c) 公共用水域(河川水質・河川底質)のダイオキシン類

計画地に最も近い公共用水域(河川水質・河川底質)のダイオキシン類の測定は徒歩橋(表 3.2-16 及び図 3.2-11 参照)で行われており、測定結果は表 3.2-22 に示すとおり、河川水質・河川底質ともに環境基準に適合している。

表 3.2-22 公共用水域におけるダイオキシン類測定結果(平成 27 年度)

河川名	測定地点名	項目	測定結果	環境基準
市野川	徒歩橋	河川水質	0.28pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L 以下
		河川底質	1.4pg-TEQ/g	150pg-TEQ/g 以下

資料:公共用水域(河川水質・河川底質)におけるダイオキシン類常時監視結果(平成 27 年度) 埼玉県ホームページ

(d) 水質汚濁に関する苦情

平成 26 年度における埼玉県内の水質汚濁に関する苦情は 213 件で公害苦情全体の約 5%であり(図 3.2-9、3-71 ページ参照)、発生源別苦情の状況は表 3.2-23 に示すとおりで、工場・事業場が 100 件(約 47%)、次いでその他の 90 件(約 42%)となっている。

表 3.2-23 埼玉県内における水質汚濁に関する発生源別の苦情件数

発生源	工場・事業場	工事・建設業	交通機関	飲食店・カラオケ	家庭生活	野焼き	その他	合計
水質汚濁	100	8	1	7	7	0	90	213

資料:平成 26 年度公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局

3.2.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌

(a) 土壌汚染の状況

埼玉県では、昭和46年度から農用地の土壌汚染状況を把握するための分析調査を5年に1度行っている。昭和54年度から平成24年度までの土壌汚染状況調査結果は、表3.2-24に示すとおりで、各項目すべて土壌の汚染に係る環境基準に適合している。

表 3.2-24 農用地の土壌汚染状況調査の分析測定結果

調査年度		調査地点の分析測定結果											
		土壌中(乾物)								玄米中(現物)			
		銅(基準値 125mg/kg)				ひ素(基準値 15mg/kg)				カドミウム(基準値 0.4mg/kg)			
		最高	最低	平均	調査地点数	最高	最低	平均	調査地点数	最高	最低	平均	調査地点数
一巡目	昭和54～ 昭和57 全県	32.3	0.1	11.3	90	11.8	tr	1.9	90	0.37	0.02	0.11	46
二巡目	昭和59～ 昭和62 全県	23.6	0.1	9.0	90	5.3	tr	1.4	90	0.30	nd	0.09	48
三巡目	平成元～ 平成4 全県	21.6	0.3	9.3	90	8.0	tr	1.8	90	0.38	tr	0.09	46
四巡目	平成6～ 平成9 全県	28.7	0.2	9.4	87	13.1	tr	2.2	87	0.30	tr	0.06	31
五巡目	平成11～ 平成14 全県	30.8	0.1	11.2	180	11.3	0.1	2.0	180	0.28	tr	0.09	50
六巡目	平成16～ 平成19 全県	21.5	tr	8.9	180	6.4	0.1	1.7	180	0.31	tr	0.06	47
七巡目	平成21～ 平成24 全県	21.7	tr	9.5	165	7.9	tr	1.7	165	0.22	tr	0.03	43

1) 基準値:環境基準、nd:検出限界以下、tr:極微量検出

資料:平成27年版埼玉県環境白書

(b) ダイオキシン類

埼玉県では、土壌のダイオキシン類の常時監視測定(発生源周辺状況調査及び一般環境把握調査)を行っており、平成 27 年度は関係市町のうち桶川市において発生源周辺状況調査が実施された。調査結果は表 3.2-25 に示すとおり、すべての調査地点で環境基準に適合している。

なお、計画地周辺では、平成 19 年度に川島町立小見野小学校において、平成 20 年度に北本市立石戸小学校において(位置図は図 3.1-5、3-15 ページ参照)、土壌のダイオキシン類一般環境把握調査が行われており、調査結果はそれぞれ順に 1.4pg-TEQ/g、3.6pg-TEQ/g であった。

表 3.2-25 ダイオキシン類発生源周辺状況調査結果(平成 27 年度)

調査地点		調査結果 (pg-TEQ/g)	環境基準
桶川市	赤堀	5.0	1,000pg-TEQ/g 以下
	大字小針領家	3.7	
	大字小針領家	6.1	
	大字小針領家	9.5	
	倉田	100	

資料:ダイオキシン類土壌常時監視結果(平成 27 年度) 埼玉県ホームページ

(c) 土壌汚染に関する苦情

平成 26 年度における埼玉県内の土壌汚染に関する苦情は 7 件で公害苦情全体の約 0.2%であり(図 3.2-9、3-71 ページ参照)、発生源別苦情の状況は表 3.2-26 に示すとおりで、工場・事業場が 3 件、工事・建設業が 1 件、その他が 3 件となっている。

表 3.2-26 埼玉県内における土壌汚染に関する発生源別の苦情件数

発生源	工場・事業場	工事・建設業	交通機関	飲食店・カラオケ	家庭生活	野焼き	その他	合計
土壌汚染	3	1	0	0	0	0	3	7

資料:平成 26 年度 公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局

(d) 土壌の分布状況

計画地周辺の表層土壌の分布状況は、図 3.2-13 に示すとおりである。

計画地は、すべて細粒灰色低地土壌(平塚統)が分布している。

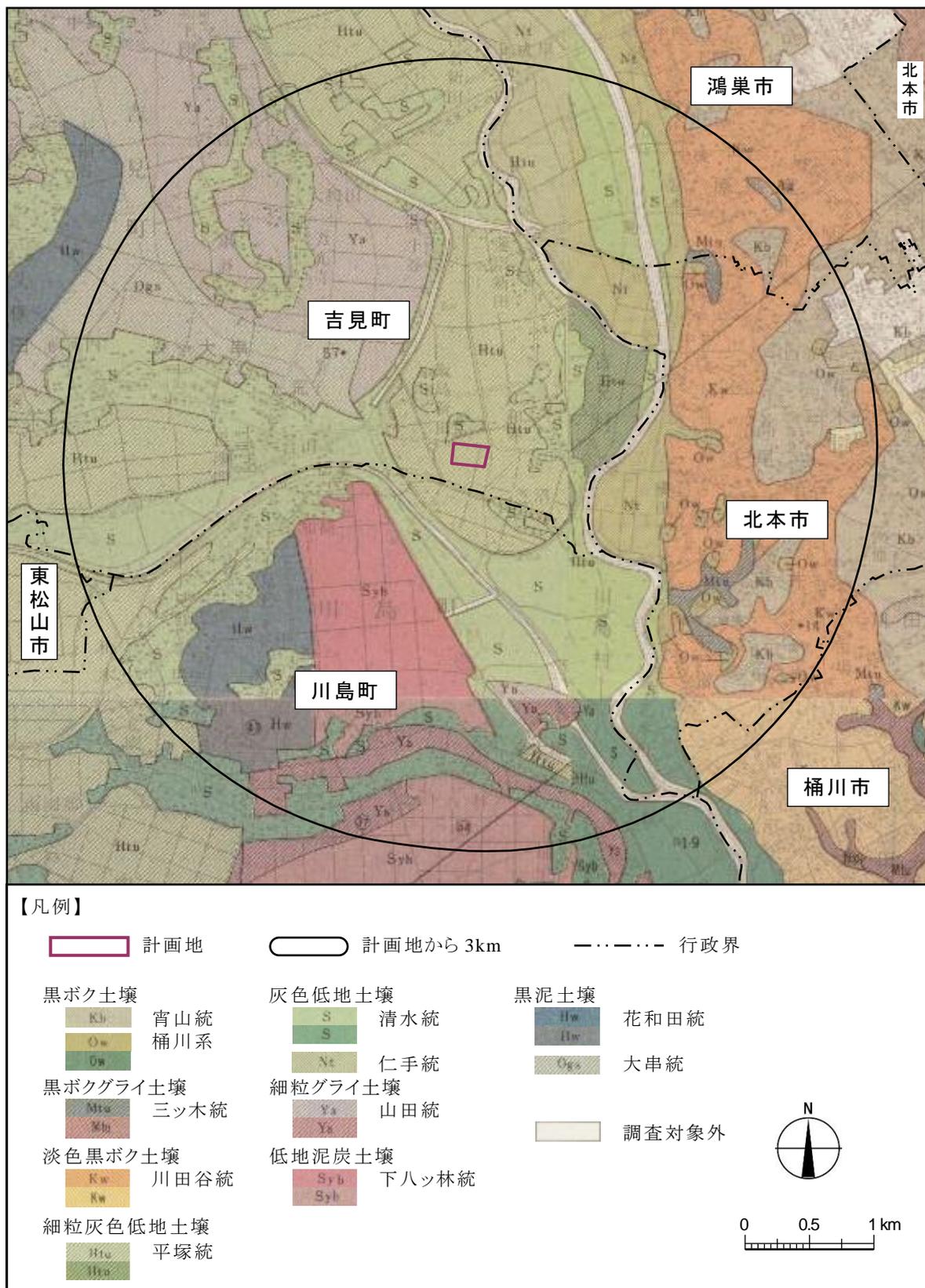


図 3.2-13 土壌図

資料：土地分類基本調査 土壌図
 川越(昭和47年)、大宮(昭和48年)、熊谷(昭和49年)、鴻巣(昭和50年) 埼玉県

(2) 地盤

(a) 地盤沈下の状況

計画地周辺の平成 23 年から平成 27 年までの度の地盤標高の変動量の測量結果は表 3.2-27 に、調査地点は図 3.2-14 に示すとおりで、過去 5 年間の地盤沈下の変動量は-15.6～-24.4mm であった。

表 3.2-27 地盤沈下の推移(水準測量結果)

No.	調査地点		調査 開始 年月日 (昭和)	各年別変動量(mm)					過去 5年間の 変動量 平成 23.1.1 平成 28.1.1 (mm)	調査 開始年 からの 変動量 (mm)
				平成 23.1.1 平成 24.1.1	平成 24.1.1 平成 25.1.1	平成 25.1.1 平成 26.1.1	平成 26.1.1 平成 27.1.1	平成 27.1.1 平成 28.1.1		
1	吉見町	大串山宝珠院 観音寺	63.1.1	-21	-1	-2	+6.2	+1.3	-15.6	-29.9
2		氷川神社境内 (東野 3-15-6)	57.1.1	-21	-5	+3	+5.2	+1.0	-16.5	-97.8
3		氷川神社境内 (北下砂 11)	57.1.1	-23	-1	+1	+3.4	+1.6	-18.5	-27.4
4	川島町	JA 埼玉中央 川島支店内	50.1.1	-23	0	-4	+3.3	-1.2	-24.4	-144.7
5	川島町	川島町立 小見野小学校	50.1.1	-21	-1	-4	+5.8	+0.6	-18.7	-103.1

資料:平成 27 年度水準測量成果表 埼玉県環境部水環境課

(b) 地盤沈下に関する苦情

平成 26 年度における埼玉県内の地盤沈下に関する苦情は 4 件で公害苦情全体の約 0.1%であり(図 3.2-9、3-71 ページ参照)、発生源別苦情の状況は表 3.2-28 に示すとおりで、その他が 4 件となっている。

表 3.2-28 埼玉県内における地盤沈下に関する発生源別の苦情件数

発生源	工場・ 事業場	工事・ 建設業	交通機関	飲食店・ カラオケ	家庭生活	野焼き	その他	合計
地盤沈下	0	0	0	0	0	0	4	4

資料:平成 26 年度公害苦情調査結果報告書 平成 27 年 12 月 公害等調整委員会事務局



図 3.2-14 地盤沈下調査地点の位置

資料:平成 27 年度水準測量成果表 埼玉県環境部水環境課 及び 国土地理院 1/25,000 地形図

3.2.4 地形及び地質の状況

(1) 地形の状況

計画地周辺の地形分類は、図 3.2-15 に示すとおりである。

計画地は荒川低地に属し、その地形区分は河原となっている。計画地東側の荒川以東は北足立台地主部(大宮台地)に属し、火山灰台地が広がっている。

(2) 地質の状況

計画地周辺の表層地質は、図 3.2-16 に示すとおりである。

計画地周辺は、砂泥からなる未固堆積物が広く分布している。また、計画地東側の荒川以東はロームからなる火山性堆積物が広がっている。

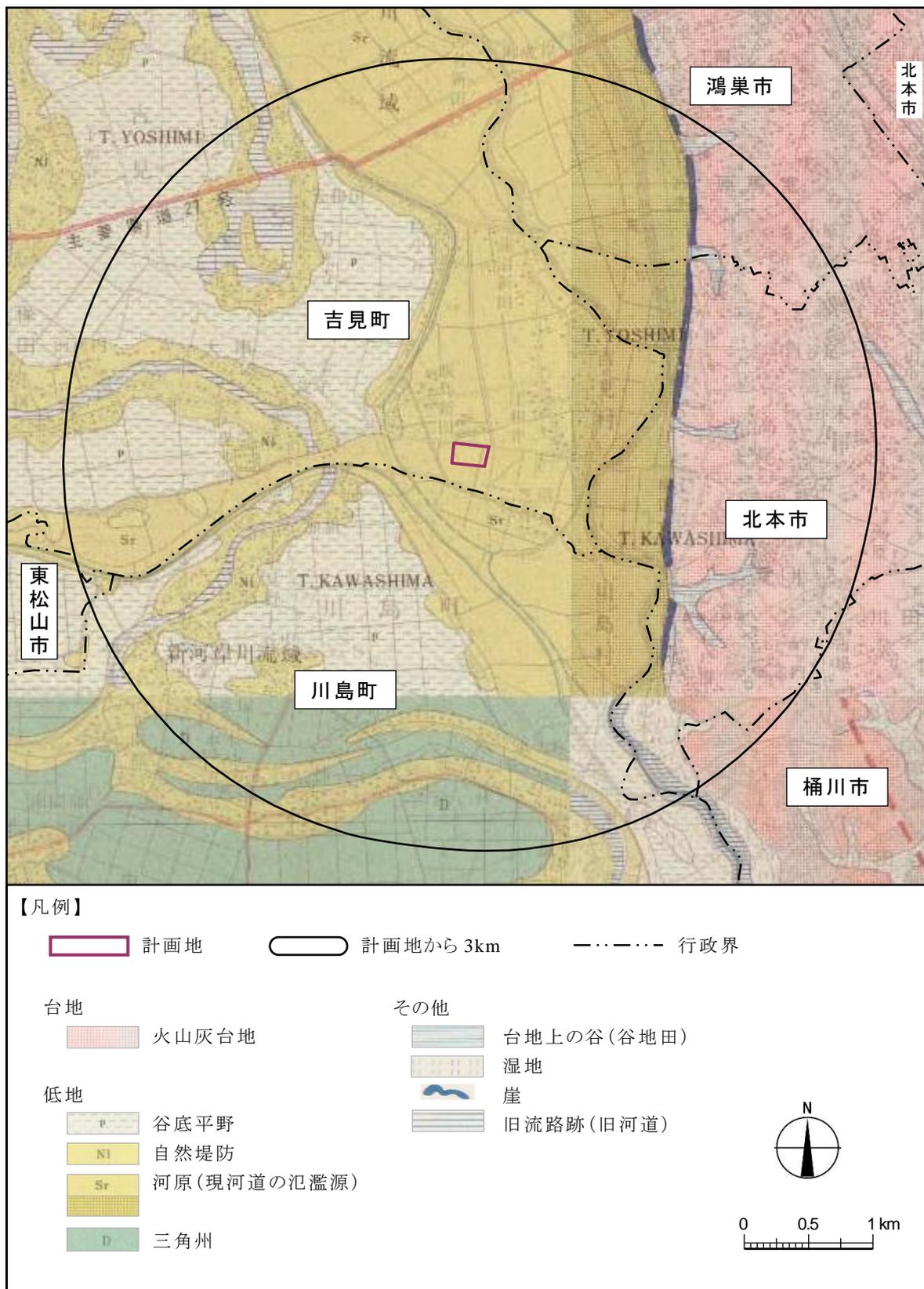


図 3.2-15 地形分類図

資料:土地分類基本調査 地形分類図
 川越(昭和 47 年)、大宮(昭和 48 年)、熊谷(昭和 49 年)、鴻巣(昭和 50 年) 埼玉県

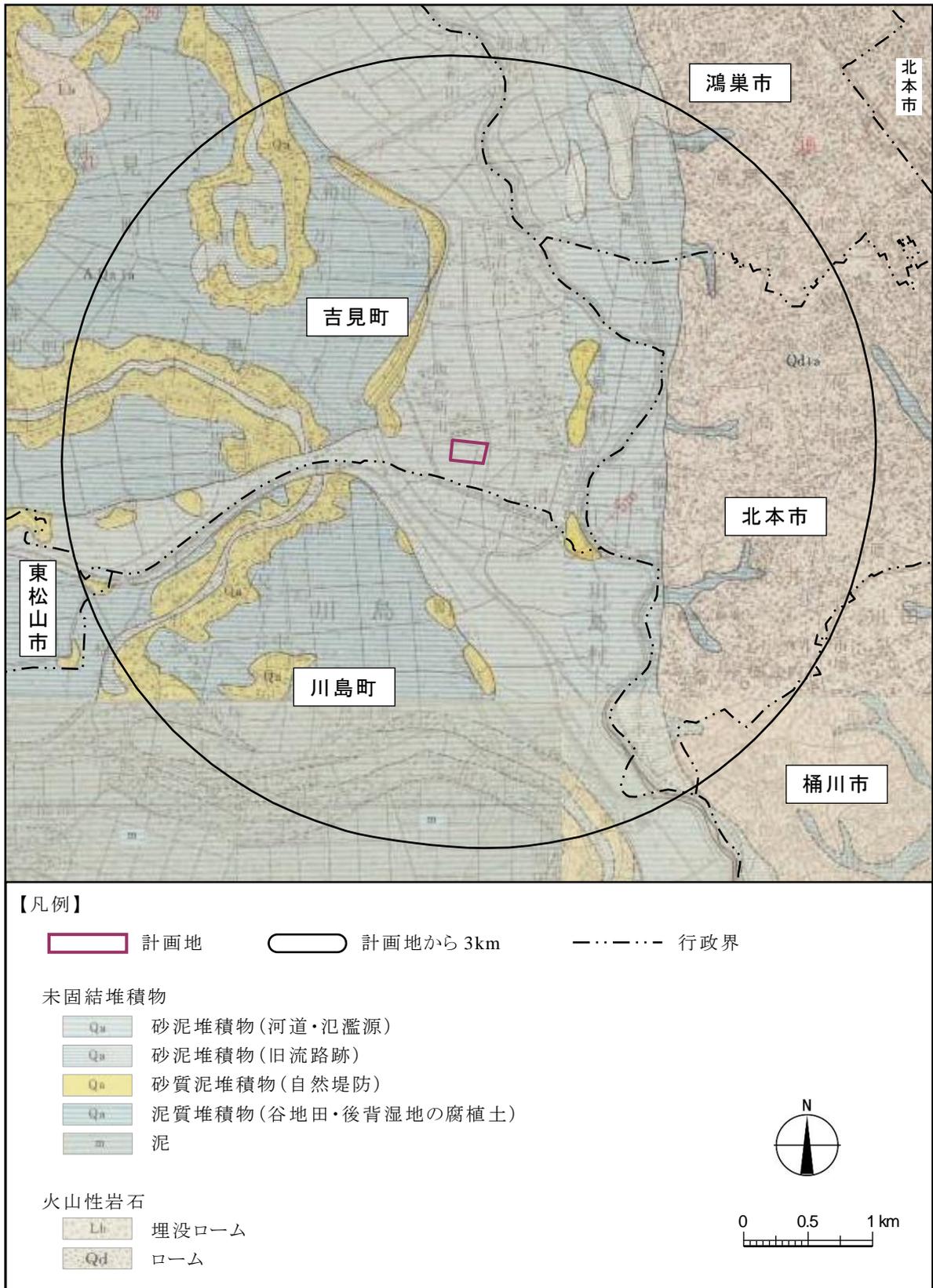


図 3.2-16 表層地質図

資料:土地分類基本調査 表層地質図
 川越(昭和 47 年)、大宮(昭和 48 年)、熊谷(昭和 49 年)、鴻巣(昭和 50 年) 埼玉県

3.2.5 動植物の生息または生育、植生及び生態系の状況

計画地を含む関係市町に生息、生育する動植物相について、表 3.2-29 に示す文献資料を用いて整理した。また、文献資料で確認された種を対象に表 3.2-30 に示す基準に該当する種を重要種として選定した。

表 3.2-29 文献資料一覧

資料	項目
埼玉県レッドデータブック 2008 動物編	動物
埼玉県動植物リスト 埼玉県ホームページ	動物
第 4 回自然環境基礎調査 動植物分布調査(平成 5 年)	哺乳類
ガンカモ類の生息調査(平成 26 年度)	鳥類
埼玉県レッドデータブック 2011 植物編	植物
埼玉県植物誌(1998 年)	植物
第 4 回自然環境基礎調査 巨樹・巨木林(1991 年)	巨樹・巨木林
第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査	植生図

表 3.2-30 重要種選定基準

No.	選定基準	項目
1	第 4 次レッドリスト 環境省(平成 24 年・平成 25 年) EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある 地域個体群	動物、植物
2	埼玉県レッドデータブック 2008 動物編 EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある 地域個体群 RT:地帯別危惧	動物
3	埼玉県レッドデータブック 2011 植物編 EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE 絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶 滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶 滅のおそれのある地域個体群	植物
4	県内希少野生動植物種	動物、植物

(1) 動物

(a) 動物相の状況

「埼玉県レッドデータブック2008 動物編」によると、計画地の位置する吉見町及び関係市町は、主に低地帯及び台地・丘陵帯に属している。また、計画地は低地帯に属し、荒川以西に広がる水田地帯の中に位置している。

文献資料によると、関係市町では 394 種の動物が確認されている。主な確認種は、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、ホンドイタチ等の哺乳類、コサギ、カルガモ、カワセミ等の鳥類、クサガメ、アオダイショウ等の爬虫類、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル等の両生類、キンブナ、モツゴ、ミナメダカ等の魚類、セスジイトトンボやモンシロチョウ等の昆虫類等であった。

表 3.2-31 分類群別確認状況(動物)

分類	目	科	種
哺乳綱	6	10	24
鳥綱	15	36	110
爬虫綱	2	9	15
両生綱	2	6	10
硬骨魚綱	7	9	33
昆虫綱	12	62	181
クモ綱(蛛形綱)	1	1	5
多足綱	1	1	1
腹足綱	2	4	5
二枚貝綱	1	1	5
軟甲綱	1	4	5
計	50	143	394

(b) 重要種

確認された重要種を表 3.2-32(1)～(2)に整理した。

関係市町では、計 249 種(哺乳類 16 種、鳥類 66 種、爬虫類 12 種、両生類 7 種、魚類 16 種、昆虫類 111 種、その他 21 種)の重要種が確認された。

表 3.2-32(1) 重要種一覧(動物)

区分	種名	重要種選定基準			区分	種名	重要種選定基準		
		環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種			環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種
哺乳類	ホンシユウジネズミ		RT		鳥類	クロツグミ		RT	
	カワネズミ		RT			ヤブサメ		RT	
	ホンシユウヒミズ		RT			ウグイス		RT	
	ヤマコウモリ	VU	VU			オオセッカ	EN	CR	
	キウシユウノウサギ		RT			コヨシキリ		VU	
	ニホンリス		RT			センダイムシクイ		RT	
	ホンドモモンガ		NT			キビタキ		RT	
	ニッコウムササビ		RT			オオルリ		RT	
	ホンドアカネズミ		RT			コサメビタキ		RT	
	ホンドヒメネズミ		RT			サンコウチョウ		VU	
	カヤネズミ		NT			エナガ		RT	
	ホンドタヌキ		RT			ヤマガラ		RT	
	ホンドキツネ		RT			ホオジロ		RT	
	ホンドテン		RT			コジュリン	VU	VU	
	ホンドイタチ		RT			ホオアカ		CR	
ニホンアナグマ		RT		ミヤマホオジロ		NT			
鳥類	ハジロカイツブリ		NT		クロジ		RT		
	カンムリカイツブリ		VU		ニュウナイスズメ		VU		
	ヨシゴイ	NT	VU		コムクドリ		DD		
	オオヨシゴイ	CR			ニホンイシガメ	NT	VU		
	ミゾゴイ	VU	EN		クサガメ		NT		
	ササゴイ		VU		ニホンスッポン	DD	NT		
	チュウサギ	NT	VU		ニホンヤモリ		NT		
	マガン	NT	CR		ニホントカゲ		RT		
	ヒシクイ	VU	CR		タカチホヘビ		VU		
	コハクチョウ		NT		アオダイショウ		NT		
	オシドリ	DD	VU		ジムグリ		RT		
	トモエガモ	VU	VU		シロマダラ		RT		
	ハチクマ	NT	VU		ヒバカリ		VU		
	オジロワシ	VU	CR		ヤマカガシ		NT		
	オオタカ	NT	VU		ニホンマムシ		RT		
	ツミ		NT		トウキョウサンショウウオ	VU	VU		
	ハイタカ	NT	NT		アカハライモリ	NT	CR	○	
	ノスリ		NT		ニホンアカガエル		RT		
	サシバ	VU	EN		ヤマアカガエル		NT		
	ハヤブサ	VU	VU		トウキョウダルマガエル	NT	NT		
	チョウゲンボウ		NT		ツチガエル		VU		
	ウズラ	VU	EN		シュレーゲルアオガエル		RT		
	クイナ		VU		ニホンウナギ	EN			
	ヒクイナ	NT	CR		キンブナ	VU	NT		
	バン		VU		ミヤコタナゴ	CR	EW		
	オオバン		CR		ヤリタナゴ	NT	CR		
	タマシギ	VU	CR		アカヒレタビラ	EN	DD		
	イカルチドリ		NT		ツチフキ	EN			
	シロチドリ	VU	LP		ドジョウ	DD			
	ケリ	DD	EN		ヒガシシマドジョウ		NT		
	タゲリ		NT		ホトケドジョウ	EN	EN		
	イソシギ		NT		ギバチ	VU	VU		
	ヤマシギ		NT		ナマズ		NT		
オオジシギ	NT	CR		ミナメダカ	VU	VU			
ツバメチドリ	VU	CR		カジカ		NT			
コアジサシ	VU	EN		ウキゴリ		DD			
シラコバト	EN	VU		ジュズカケハゼ	NT				
トラフズク		EN		ムサシノジュズカケハゼ	EN	NT			
コミズク		VU		トウヨウモンカゲロウ		VU			
オオコノハズク		NT		オオシロカゲロウ		VU			
アオバズク		RT		キイトンボ		NT			
ヨタカ	NT	VU		ベニイトンボ	NT				
カワセミ		LP		モートンイトンボ	NT				
アリスイ		NT		アオハダトンボ	NT	NT			
アオゲラ		RT		ネアカヨシヤンマ	NT	NT			
サンショウクイ	VU	VU		アオヤンマ	NT	VU			

トラツグミ		RT		コシボソヤンマ		NT	
-------	--	----	--	---------	--	----	--

表 3.2-32(2) 重要種一覧(動物)

区分	種名	重要種選定基準			区分	種名	重要種選定基準		
		環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種			環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種
昆虫類	サラサヤンマ		NT		昆虫類	カエルキンバエ	DD	NT	
	キイロサナエ	NT	NT			キイロコガネヤドリバエ		NT	
	クロサナエ		NT			アカガネオサムシ本州亜種		CR	
	ヒメクロサナエ		NT			チビアオゴミムシ	EN	NT	
	アオサナエ		NT			クロモンヒラナゴゴミムシ		VU	
	ホンサナエ		VU			アリスアトキリゴミムシ	DD	NT	
	ヒメサナエ		NT			ホソハンミョウ	VU	NT	
	ナゴヤサナエ	VU	NT			トダセスジゲンゴロウ	VU	EN	
	メガネサナエ	VU	CR+EN			ゲンゴロウ	VU	CR	
	トラフトンボ		CR+EN			マルガタゲンゴロウ	VU	CR	
	エゾトンボ		CR+EN			シマゲンゴロウ	NT	NT	
	オオキトンボ	EN	CR+EN			オオイチモンジシマゲンゴロウ	EN	VU	
	オナシカワゲラ		VU			キベリクロヒメゲンゴロウ	NT	NT	
	アサカワヒメカワゲラ		NT			ヒメシマチビゲンゴロウ		NT	
	ヒメカワゲラ		VU			コオナガミズスマシ	VU	NT	
	エゾツユムシ		LP			オナガミズスマシ		VU	
	オナガササキリ		LP			マダラコガシラミズムシ	VU	VU	
	ヒガシキリギリス		NT			カワラゴミムシ		EN	
	ヒメクサキリ		LP			カントウコチビシデムシ		NT	
	スズムシ		NT			ススキクチヒゲアリヅカムシ		NT	
	マツムシ		LP			アカマダラハナムグリ		NT	
	クマコオロギ		LP			オオキイロコガネ		NT	
	コガタコオロギ		NT			ウバタマムシ		NT	
	エゾスズ		LP			アオマダラタマムシ		NT	
	クルマバッタ		NT			ゲンジボタル		VU	
	ナキイナゴ		NT			ヘイケボタル		NT	
	アオフキバッタ		LP			イシハラジョウカイモドキ		VU	
	ヒメフキバッタ		LP			アイス TENTウ		NT	
	ヤマトフキバッタ		LP			ムモンチャイロテントウ		NT	
	キスジハネビロウンカ		NT			ヒメビロウドカミキリ	NT	NT	
	シリアカハネナガウンカ		NT			シロスジカミキリ		NT	
	ハウチワウンカ	VU	EN			アカアシオアオオカミキリ		NT	
	ビロウドサシガメ		CR			クスベニカミキリ		NT	
	トゲサシガメ		NT			オオルリハムシ	NT	VU	
	アズキヘリカメムシ		NT			ツヤネクイハムシ		EN	
	イネカメムシ		CR			キヌツヤミズクサハムシ		NT	
	ムモンミズカメムシ		NT			オナガカツオゾウムシ		NT	
	ミヅナシミズムシ	NT	VU			チャイロスズメバチ		VU	
	ミヤケミズムシ	NT	CR			フクイジガバチモドキ	DD	EN	
	コバシムシ	EN	CR			コウノスジガバチモドキ		CR	
	タイリククロスジヘビトンボ		NT			コガネグモ		EN	
	ヤマトクロスジヘビトンボ		NT			トリノフンダマシ		NT	
	ブライヤーヒロバカゲロウ		NT			オオトリノフンダマシ		NT	
	ウンモンヒロバカゲロウ		NT			シロオビトリノフンダマシ		NT	
	ヒメカマキリモドキ		VU			ゲホウグモ		DD	
ムナグロナガレトビケラ		NT		ツメフジヤスデ		EN			
コバントビケラ		NT		サドヤマトガイ	NT	VU			
ミヤマセセリ		NT		ミジンヤマタニシ		VU			
ギンイチモンジセセリ	NT	NT		マルタニシ	VU	NT			
コツバメ		NT		モノアラガイ	NT	NT			
オオミドリシジミ		NT		ヒラマキミズマイマイ	DD	NT			
ウラナミアカシジミ		VU		ヌマガイ		NT			
ミドリシジミ		NT		タガイ		NT			
コムラサキ		NT		マツカサガイ	NT	EN			
ミスジチョウ		NT		ヨコハマシジラガイ	NT	NT			
ジャノメチョウ		NT		イシガイ		NT			
イボタガ		RT		ヌカエビ		VU			
オナガミズアオ		LP		テナガエビ		RT			
ヤママユ		RT		スジエビ		RT			
コシロシタバ	NT			モクズガニ		NT			

フシキキシタバ		NT		サワガニ		RT	
ハスオビアツバ		CR+EN	計	249 種	81 種	241 種	1 種

(2) 植物

(a) 植物相の状況

「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」によると、計画地の位置する吉見町及び関係市町は、主に標高 50m未満の荒川西台地及び大宮台地に属している。

文献資料によると、関係市町では、156 科 1,153 種の維管束植物が確認されている。

表 3.2-33 分類群別確認状況(植物)

分類	科	種
維管束植物	156	1,153
シダ植物	24	110
種子植物	132	1,043
裸子植物	4	6
被子植物	128	1,037
双子葉植物	107	726
単子葉植物	21	311

(b) 重要種

関係市町で確認された重要種は、表 3.2-34(1)～(3)に示すとおりである。

確認された重要種は、49 科 291 種であった。

表 3.2-34(1) 重要種一覧(植物)

科名	和名	重要種選定基準			科名	和名	重要種選定基準		
		環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種			環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種
マツバラ科	マツバラ	NT	CR		タデ科	ノダイオウ	VU	CR	
イワヒバ科	カタヒバ		NT		ナデシコ科	コギシギシ	VU	VU	
	タチクラマゴケ		VU			ナンバンハコベ		NT	
ミズニラ科	イワヒバ		NT			カワラナデシコ		VU	
	ミズニラ	NT	VU			ヒゲネワチガイソウ		NT	
トクサ科	イヌスギナ		NT		イトハコベ	VU	CR	○	
ハナヤスリ科	アカハナワラビ		NT		アカザ科	ミドリアカザ	CR	EN	
	ナツノハナワラビ		NT		キンボウゲ科	フクジュソウ		NT	
	コヒロハハナヤスリ		VU			イチリンソウ		NT	
	コハナヤスリ		EN			アズマイチゲ		NT	
ヒロハハナヤスリ		EN		ヒメウス			VU		
ゼンマイ科	ヤシヤゼンマイ		VU			カザグルマ	NT	EN	
キジノオンダ科	オオキジノオ		CR			ミスミソウ	NT	CR	
ウラジロ科	コシダ		VU			オキナグサ	VU	CR	
	ウラジロ		NT			コキツネノボタン	VU	EN	
コケシノブ科	ハイホラゴケ		VU			ヒキノカサ	VU	CR	
	アオホラゴケ		VU			バイカモ		EN	
コバノイシカグマ科	コバノイシカグマ		NT		セツブンソウ	NT	NT		
ホングウシダ科	ホラシノブ		VU		カラマツソウ		EN		
ミズワラビ科	ミズワラビ		NT		ノカラマツ	VU	VU		
	ヒメウラジロ	VU	VU		メギ科	イカリソウ		NT	
	ミヤマウラジロ		NT		ツツラフジ科	ツツラフジ		VU	
シシラン科	シシラン		NT		スイレン科	オニバス	VU	CR	○
イノモトソウ科	アマクサシダ		EN		マツモ科	マツモ		VU	
	オオバノハチジョウシダ		EN			ハンゲショウ		VU	
	マツザカシダ		DD		ウマノスズクサ科	ウスバサイシン		NT	
チャセンシダ科	トキワトランオ		VU		カンアオイ		NT		
シシガシラ科	クモノシダ		NT		タマノカンアオイ	VU	CR	○	
	コモチシダ		EN		オトギリソウ科	トモエソウ		VU	
オンダ科	オオカナワラビ		NT			アゼオトギリ	EN	CR	
	ホソバカナワラビ		CR			ミズオトギリ		EN	
	オニカナワラビ		EN		モウセンゴケ科	モウセンゴケ		CR	
	キヨスミヒメワラビ		NT		ケシ科	ヤマブキソウ		NT	
	イワヘゴ		NT		アブラナ科	ハタザオ		VU	
	サイゴクベニシダ		VU			ミズタガラシ		EN	
	ナチクジャク		CR			コイヌガラシ	NT	NT	
	マルバベニシダ		NT		ベンケイソウ科	ツメレンゲ		NT	EN
	ギフベニシダ		DD		ユキノシタ科	ネコノメソウ		NT	
	エンシュウベニシダ		EN			タコノアシ	NT	VU	
	ナガバノイタチシダ		EN		バラ科	ヤブサンザシ		VU	
	タニヘゴ		VU			カワラサイコ		VU	
	サイゴクイノデ		VU			リンボク		EN	
	ヒメカナワラビ		EN			ナガボノシロワレモコウ		NT	
ヒメシダ科	コハシゴシダ		EN		ナガボノアカワレモコウ		VU		
メシダ科	オオヒメワラビ		NT		マメ科	タヌキマメ		CR	
	ミヤマノコギリシダ		DD		カタバミ科	カントウミヤマカタバミ		EN	
	ヘラシダ		CR		トウダイグサ科	ノウルシ	NT	VU	
	ノコギリシダ		EN		ミカン科	フユザンショウ		NT	
ウラボシ科	クリハラシ		CR		ドクウツギ科	ドクウツギ		EN	
デンジソウ科	デンジソウ	VU	CR	○	ツリフネソウ科	ワタラセツリフネソウ		EN	
サンショウモ科	サンショウモ	VU	EN		ジンチョウゲ科	オニシバリ		EN	
アカウキクサ科	アカウキクサ	EN	DD		スマレ科	エゾノタチツボスミレ		VU	
ブナ科	アカガシ		NT			ヒメヤマスミレ		EN	
イラクサ科	トキホコリ	VU	VU			マキノスミレ		VU	
ヤドリギ科	マツグミ		EN			コミヤマスミレ		EN	
タデ科	ヒメタデ	VU	EN			アケボノスミレ		NT	
	ホソバイヌタデ	NT	EN		ウリ科	ゴキヅル		VU	
	シロバナサクラタデ		NT		ミソハギ科	ヒメミソハギ		NT	
	ヌカボタデ	VU	EN			エゾミソハギ		EN	

表 3.2-34(2) 重要種一覧(植物)

科名	和名	重要種選定基準			科名	和名	重要種選定基準		
		環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種			環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種
ミソハギ科	ミズマツバ	VU	VU		キキョウ科	サワギキョウ		CR	
ヒシ科	ヒメビシ	VU	EN		キク科	カワラハハコ		VU	
	ヒシ		NT			カワラヨモギ		VU	
	オニビシ		NT			ヒメシオン		VU	
アカバナ科	ウスゲチョウジタデ	NT	VU			タウコギ		NT	
	ミズユキノシタ		CR			オオガンクビソウ		NT	
	ミズキンバイ	VU	DD			フジバカマ	NT	NT	
アリノトウグサ科	ホザキノフサモ		EN			アキノハハコグサ	EN	CR	
	フサモ		NT			オグルマ		NT	
セリ科	エキサイゼリ	NT	CR			ホソバオグルマ	VU	EN	
	シムラニンジン	VU	CR			カセンソウ		NT	
	ムカゴニンジン		CR			ノニガナ		NT	
	サワゼリ	VU	CR			ミヤコアザミ		EN	
イチヤクソウ科	ウメガサソウ		VU			オカオグルマ		EN	
	シャクジョウソウ		NT		オナモミ	VU	VU		
サクラソウ科	ノジトラノオ	VU	EN		オモダカ科	ヘラオモダカ		NT	
	ヌマトラノオ		NT			サジオモダカ		EN	
	サワトラノオ	EN	CR	○		アギナシ	NT	CR	
	サクラソウ	NT	CR	○		ウリカワ		NT	
マチン科	ヒメナエ	VU	CR		トチカガミ科	クロモ		EN	
	アイナエ		NT			トチカガミ	NT	VU	
リンドウ科	コケリンドウ		EN			ミズオオバコ	VU	VU	
	センブリ		VU			セキショウモ		NT	
ミツガシワ科	ヒメシロアサザ	VU	EN		ヒルムシロ科	コウガイモ		VU	
	アサザ	NT	VU			イトモ	NT	VU	
キョウチクトウ科	チョウジソウ	NT	EN			エビモ		NT	
ガガイモ科	スズサイコ	NT	EN			ヒルムシロ		NT	
	コカモメツル		NT			フトヒルムシロ		DD	
アカネ科	アリドオシ		VU			センニンモ		NT	
	ハナムグラ	VU	EN			ササバモ		NT	
	ホソバノヨツバムグラ		NT		ヤナギモ		NT		
ムラサキ科	ホタルカズラ		VU		イバラモ科	イトトリゲモ	NT	DD	
	ヤマルリソウ		VU			トリゲモ	VU	EN	
シソ科	ヒメハッカ	NT	EN		ユリ科	ヒメニラ		NT	
	ミゾコウジュ	NT	NT			ヤマラッキョウ		VU	
	トウゴクシソバダツナミンソウ		NT			ステゴビル	VU	EN	
	オカタツナミソウ		NT			アズマシライトソウ	VU	EN	
	ヒメナミキ		EN			カタクリ		NT	
	ホナガタツナミソウ		NT			キバナノアマナ		NT	
	ゴマノハグサ科	サワトウガラシ		CR			ニッコウキスゲ		VU
	アブノメ		NT			ホトギス		VU	
	オオアブノメ	VU	EN			シロバナエンレイソウ		NT	
	シソクサ		EN			アマナ		NT	
	キクモ		NT		ヒロハノアマナ	VU	EN		
	キタミソウ	VU	EN	○	ヒガンバナ科	キツネノカミソリ		NT	
	スズメノトウガラシ		EN		ミズアオイ科	ミズアオイ	NT	CR	
	スズメハコベ	VU	CR		アヤメ科	ノハナショウブ		VU	
	クチナシグサ		NT			カキツバタ	NT	CR	
	ヒキヨモギ		NT		ホシクサ科	ホシクサ		EN	
	オオヒキヨモギ	VU	EN			イトヌノヒゲ		EN	
	イヌノフグリ	VU	NT			ニッポンイヌノヒゲ		EN	
	カワヂシャ	NT	VU			イヌノヒゲ		EN	
	ハグロソウ		NT			ヒロハイヌノヒゲ		VU	
	スズメノトウガラシ		EN			イネ科	ミズタカモジ	VU	EN
キツネノマゴ科	ハグロソウ		NT			セトガヤ		NT	
ハマウツボ科	ナンバンギセル		VU			アズマガヤ		NT	
タヌキモ科	コタヌキモ		EX			コウヤザサ		NT	
スイカズラ科	ゴマギ		NT			ムツオレグサ		NT	
オミナエシ科	オミナエシ		EN			ハイチゴザサ		EN	
	ツルカノコソウ		NT			ヌマガヤ		EN	
キキョウ科	ツルギキョウ	VU	CR						
	バアソブ	VU	EN						

表 3.2-34(3) 重要種一覧(植物)

科名	和名	重要種選定基準			科名	和名	重要種選定基準			
		環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種			環境省 RL	埼玉県 RDB	県内 希少種	
イネ科	セイダカヨシ		VU		カヤツリグサ科	ハタケテンツキ	EN	CR		
	ウシクサ		NT			イトイヌノハナヒゲ		EN		
サトイモ科	マイヅルテンナンショウ	VU	CR			ヒメホタルイ		VU		
	ウラシマソウ		NT			タイワンヤマイ		EN		
	ザゼンソウ		EN			コマツカサススキ		EN		
ミクリ科	ヒメザゼンソウ		EN			マツカサススキ		NT		
	ミクリ	NT	NT			コシンジュガヤ		EN		
カヤツリグサ科	ヤマトミクリ	NT	EN			ラン科	シラン	NT	EN	
	ナガエミクリ	NT	VU				エビネ	NT	EN	
	ハタガヤ		EN				ギンラン		VU	
	トダスゲ	CR	CR	○	キンラン		VU	EN		
	ジョウロウスゲ	VU	CR		ササバギンラン			NT		
	ヌマアゼスゲ	VU	CR		サイハイラン			NT		
	ウマスゲ		NT		シュンラン			NT		
	タチスゲ		NT		マヤラン		VU	DD		
	ヒメゴウソ		NT		クマガイソウ		VU	CR		
	タカネマスクサ		NT		セッコク			EN		
	タヌキラン		VU		アケボノシュスラン			EN		
	オニナルコスゲ		EN		ベニシュスラン			DD		
	カンエンガヤツリ	VU	VU		ミヤマウズラ			NT		
	シロガヤツリ		VU		シュスラン			CR		
	ヒメガヤツリ		VU		クモキリソウ			NT		
	スジヌマハリイ	VU	CR		コ克蘭			EN	○	
	ヌマハリイ		EN		オオバノトンボソウ			NT		
	コツブヌマハリイ	VU	CR		トンボソウ			CR		
	コアゼテンツキ		NT		カヤラン			NT		
	ノテンツキ		EN		ハクウンラン			EN		
アゼテンツキ		EN		計	89 科	295 種	86 種	295 種	9 種	

(c) 巨樹・巨木林

「第4回自然環境基礎調査 巨樹・巨木林(1991年)」によると、関係市町では表 3.2-35 に示す巨樹・巨木が確認されている。

表 3.2-35 市町村別巨樹・巨木林一覧

市町村名	巨樹	巨木			合計
		樹林	並木	計	
吉見町	1	—	—	—	1
東松山市	9	2	—	2	11
鴻巣市	17	8	—	8	25
旧吹上町	3	—	—	—	3
旧川里村	6	—	—	—	6
桶川市	20	—	—	—	20
北本市	16	—	—	—	16
川島町	2	—	—	—	2

1) 表中の数値は件数を示す。

(d) 植物群落の状況

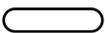
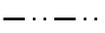
計画地周辺の現存植生は図 3.2-17 に示すとおりである。

計画地は、水田雑草群落が占めており、計画地周辺では、主に水田雑草群落、畑雑草群落、住宅地、市街地等が広がっている。また、計画地の近隣には、一級河川の荒川、及びその支川である市野川といった開放水面がみられる。

また、「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」によると、関係市町では、表 3.2-36 に示す希少な植物群落が確認されている。



【凡例】

- | | | | | | |
|---|------------------------|---|-------------|--|------------|
|  | 計画地 |  | 計画地から 3km |  | 行政界 |
|  | 19 シラカシ群集 |  | f 路傍・空地雑草群落 |  | c 放棄畑雑草群落 |
|  | 35 クヌギ群落 (V I) |  | e 果樹園 |  | a 畑雑草群落 |
|  | 36 ヤナギ低木群落 (V I) |  | b 水田雑草群落 |  | d 放棄水田雑草群落 |
|  | 40 ケヤキシラカシ群落 |  | k 市街地 |  | i 緑の多い住宅地 |
|  | 44 クリーコナラ群集 |  | L 工場地帯 |  | w 開放水域 |
|  | 45 クヌギコナラ群集 |  | m 造成地 |  | s 残存・植栽樹群地 |
|  | 47 アカシデーイヌシデ群落 (V I I) | | | | |
|  | 59 ヨシクラス | | | | |
|  | 62 オギ群集 | | | | |
|  | 66 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | | | | |
|  | 73 モウソウチク林 | | | | |
|  | h ゴルフ場・芝地 | | | | |

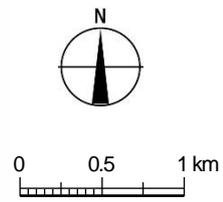


図 3.2-17 植生分布図

資料: 第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査植生調査情報提供ホームページ 環境省

表 3.2-36 市町別希少な植物群落一覧

群落名	吉見町	東松山市	鴻巣市	桶川市	北本市	川島町	荒川水系
ウラジログラン群落 (木本)		○					
アカマツ群落 (木本)	○	○					
イヌシデ群落 (木本)					○		
クヌギ群落 (木本)			○				
ケヤキ群落 (木本)			○				
コナラ群落 (木本)	○	○			○		
イヌコリヤナギ群落 (木本)							○
タチヤナギ群落 (木本)							○
アカメヤナギ群落 (木本)							○
カワヤナギ群落 (木本)							○
ハンノキ群落 (木本)			○				
オニナルコスゲ群落 (草本)				○			
コツブヌマハリイ群落 (草本)				○		○	
サクラソウ群落 (草本)				○			
チョウジソウ群落 (草本)				○			
ヒメゴウソ群落 (草本)		○					
ノウルシ群落 (草本)				○			
サワトウガラシ群落 (草本)		○					
ハタケテンツキ群落 (草本)			○		○		
ヒシ群落 (草本)						○	
荒川旧流路の水生物群落 (複合)	○		○	○	○		
江川下流域湿性植物群落 (複合)				○			
高尾宮岡の景観地 (複合)					○		
三ツ又沼及びその周辺湿地の植物群落 (複合)						○	

(3) 生態系

計画地は、その大部分が水田であり、水田の間を通る水路や計画地東側には小河川がみられる等、現在も稲作が行われている農地である。

計画地周辺は、計画地と同様に水田が多く、所々に集落がみられる他、計画地南側から東側では畑地等の耕作地が広がっている。このように、計画地周辺は、現在、主に営農活動の場として利用されている。

また、計画地東側には一級河川の荒川、南西側には荒川水系の市野川が流下している。

計画地周辺では、主に水田が広がる農耕地に生育する植物が基礎生産者であり、その植生は単調である。しかし、水田や畑地といった営農活動を通じて生じる二次的環境は、湿地や草地等を生息、生育場とする種にとっては、重要な環境となっていると考えられる。

このような環境を反映して、計画地では、水田及びその周辺の水路を繁殖場とするカエル類、トンボ類等の水生昆虫類、それらを餌とするサギ類等の鳥類、ヘビ類等の爬虫類により、水田によくみられる生態系が構築されていると考えられる。

また、計画地周辺では、農耕地に多くみられるチョウゲンボウ、カワラヒワ、スズメ等の鳥類、平野部に一般的にみられるホンドタヌキ、ホンドイタチ等の哺乳類、草地、農耕地に多くみられるバッタ類、カメムシ類等の昆虫類等が生息する他、河川や水路等の水域には、ギンブナ、ウグイ、オイカワ、シマドジョウ、ミナメダカ等の魚類、スジエビ、ヌカエビ等の甲殻類、マルタニシ、モノアラガイ等の貝類、水生昆虫類といった水生生物の生息が考えられ、水生植物を生産者とする水域生態系が構築されていると考えられる。

3.2.6 景観及び人と自然とのふれあいの場の状況

(1) 景観の状況

計画地周辺の景観資源の状況は表 3.2-37 及び図 3.2-18 に示すとおりで、主な景観資源は荒川沿いにみられ、計画地周辺約 1km の範囲には存在しない。

計画地は荒川及び市野川の合流点川上で両河川に挟まれた場所に位置しており、計画地周辺は低地帯が広がっている。その周囲は広々とした水田地帯の中に住宅が点在する田園風景が広がっている。

表 3.2-37 主な景観資源の状況

No.	種別	名称	所在地
1	景観活動	ポピーハッピースクエア	鴻巣市馬室地内
2	公園・広場	城山公園	桶川市大字川田谷
3		北本市野外活動センター	北本市高尾 9 丁目
4		高尾さくら公園	北本市高尾 6 丁目
5		北本水辺プラザ公園	北本市高尾 9 丁目
6		建築物	横見神社本殿
7		鴻巣市産業観光館「ひなの里」	鴻巣市人形 1 丁目
8		遠山記念館	川島町大字白井沼
9	樹木	石戸蒲ザクラ	北本市石戸宿 3 丁目
10	並木	城ヶ谷堤	北本市大字石戸宿

資料: 埼玉県景観資源データベース 埼玉県ホームページ

(2) 人と自然とのふれあいの場の状況

計画地周辺の人と自然とのふれあいの場の状況は表 3.2-38 及び図 3.2-18 に示すとおりである。

計画地周辺では、計画地の西側約 500m の距離にはサイクリングコースが敷設されている。

表 3.2-38 主な自然とのふれあいの場の状況

No.	種別	名称	所在地
A	道の駅	道の駅 いちごの里よしみ	吉見町大字久保田
B	公園・広場	コスモス畑(秋季)	吉見町下細谷耕地
C		さくら堤公園	吉見町飯島新田
D		ふれあい広場	吉見町小新井
E		普門寺のしだれ桜	桶川市川田谷
F		城山公園三ツ木城跡	桶川市川田谷
G		総合運動場	桶川市川田谷
H		北本市子供公園	北本市石戸宿 3 丁目
I		北本自然観察公園	北本市荒井 5 丁目
J		平成の森公園	川島町大字下八ツ林
K		古墳	原山古墳群
L	稲荷塚古墳群		川島町大字下小見野
M	釣場	鳥羽井沼へら鮒釣場	川島町大字鳥羽井 132
N		フィッシングフィールド川越	川島町上八ツ林
—	サイクリングコース	さいたま武蔵丘陵森林公園自転車道	吉見町～川島町
—		川島こども動物自然公園自転車道	川島町

資料: 吉見町史跡と観光マップ 吉見町、桶川市観光マップ 一般社団法人桶川市観光協会ホームページ、川島町観光・文化財マップ 川島町ホームページ 他



図 3.2-18 景観及び人と自然とのふれあいの場の状況

資料:埼玉県ホームページ他 及び 国土地理院 1/25,000 地形図

3.2.7 文化財等の状況

(1) 指定文化財

計画地周辺の文化財等の指定状況は表 3.2-39(1)～(2)及び図 3.2-19 に示すとおりで、計画地周辺約 1km の範囲には、指定文化財は存在しない。

計画地から最も近いものとしては、計画地西側約 1km の距離に県指定の文化財である金蔵院宝篋印塔が存在する。

(2) 埋蔵文化財

本事業における「建設候補地評価書」(平成 26 年 3 月 26 日、平成 25 年度第 4 回玉中部広域清掃協議会資料)によると、計画地には埋蔵文化財包蔵地は存在しないことが確認されている。

計画地周辺では縄文から古墳時代の集落跡が多く確認されており、計画地西側約 800m の距離に、金蔵院裏遺跡や赤城裏遺跡等の埋蔵文化財包蔵地が存在している。

表 3.2-39(1) 指定文化財の状況

No.	指定	区分	種別	名称	所在地	
1	国	重要文化財	絵画	紙本着色三十六歌仙切(頼基)	川島町白井沼 675	
2				絹本着色春靄起鴉図	川島町白井沼 675	
3				紙本着色布晒舞図	川島町白井沼 675	
4			工芸品	秋野蒔絵手箱	川島町白井沼 675	
5			書跡	寸松庵色紙(むめのかを)	川島町白井沼 675	
6				源頼朝筆書状	川島町白井沼 675	
7			考古資料	埼玉県後谷遺跡出土品	桶川市泉 1-3-28 (桶川市歴史民俗資料館所蔵)	
8		記念物	天然記念物	石戸蒲ザクラ	北本市石戸宿 3-119	
9	県	有形文化財	絵画	絹本着色両界曼荼羅 付 旧箱書一枚	吉見町御所 146	
10			彫刻	木造不動明王坐像	吉見町御所 146	
11			古文書	道祖土文書	川島町下八ツ林 296(県文書館寄託)	
12			考古資料	金蔵院宝篋印塔出土白磁四耳壺及び び渥美大甕	吉見町下細谷 411 (吉見町埋蔵文化財センター所蔵)	
13				板石塔婆	北本市石戸宿 3-119	
14		民俗文化財	無形民俗文化財	原馬室の獅子舞	鴻巣市原馬室地内	
15		記念物	史跡	金蔵院宝篋印塔	吉見町大串 2244	
16				馬室埴輪窯跡	鴻巣市原馬室地内	
17			旧跡	伝範頼館跡	吉見町御所 146	
18		吉見町	有形文化財	建造物	横見神社本殿	吉見町久保田 117
19				絵画	絹本着色涅槃図	吉見町御所 146
20				彫刻	無量寺木造阿弥陀如来立像	吉見町久保田地内
21					木造聖観音菩薩坐像	吉見町御所 146
22				書籍	仏説大乘造像功德経上・下 2 卷	吉見町御所 146
23	古文書			窪田村検地帳	吉見町久保田地内	
24	考古資料			観音寺板碑群	吉見町大串 1282	
25				龍淵寺宝篋印塔及び塔内納入品	吉見町北下砂 270-1	
26	民俗文化財			無形民俗文化財	下細谷ささら獅子舞	吉見町下細谷 313-3
27	鴻巣市	有形文化財	工芸品	常勝寺密教法具	鴻巣市滝馬室地内	
28		民俗文化財	無形民俗文化財	滝馬室の祭	鴻巣市滝馬室地内	
29		民俗資料	吉見道みちしるべ	鴻巣市人形 1 丁目		
30	桶川市	有形文化財	建造物	諏訪神社本殿	桶川市川田谷 6710-1	
31				旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物	桶川市川田谷 2335-16 他	
32			古文書	岩田家文書	桶川市川田谷地内 (桶川市歴史民俗資料館寄託)	
33			考古資料	氷川神社裏古墳出土品	桶川市川田谷 4405-4 (桶川市歴史民俗資料館)	
34		高井遺跡縄文時代出土品		桶川市川田谷 4405-4 (桶川市歴史民俗資料館)		
35		民俗文化財	有形民俗文化財	前領家矢部家山王社の奉納絵馬等 付民間信仰資料	桶川市川田谷地内 (桶川市歴史民俗資料館寄託)	
36				下日出谷の神楽・芝居用具	桶川市川田谷 4405-4 (桶川市歴史民俗資料館)	
37			無形民俗文化財	前領家のささら獅子舞	桶川市川田谷前領家区	
38		記念物	史跡	原山古墳群	桶川市川田谷 7313-1 他	
39			天然記念物	普門寺のしだれ桜	桶川市川田谷 6663	

表 3.2-39(2) 指定文化財の状況

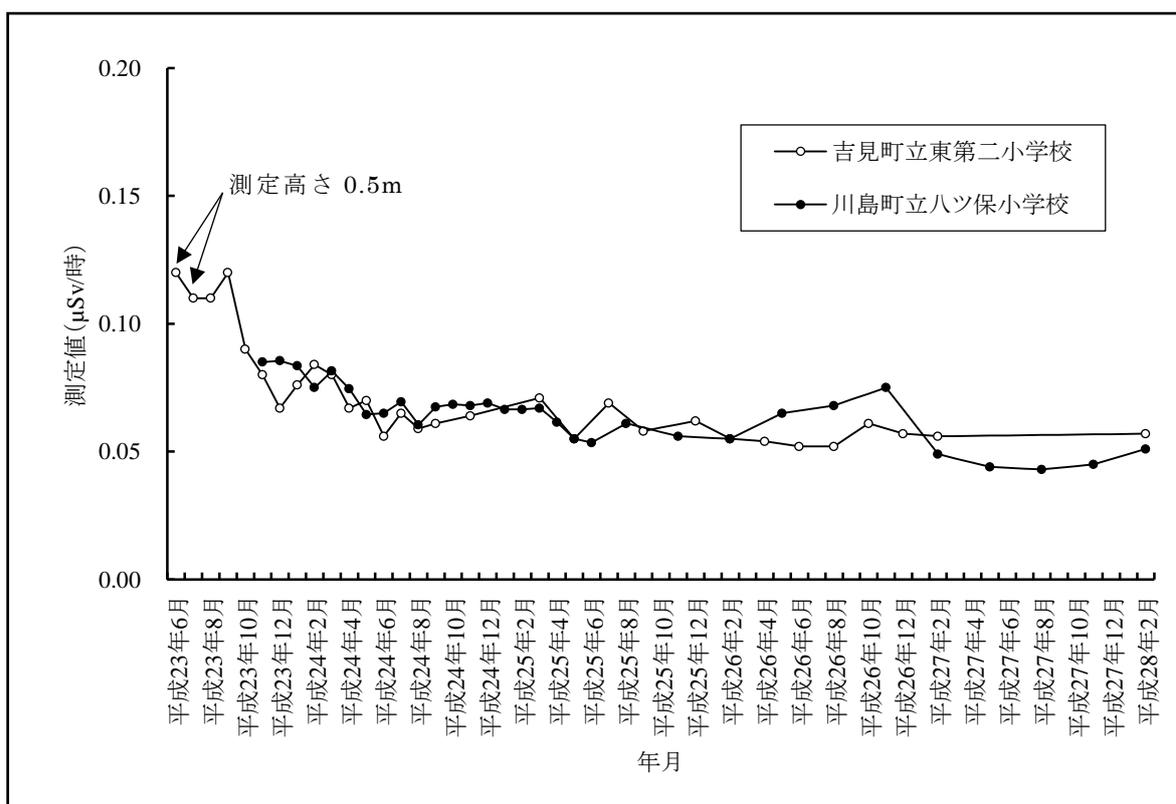
No.	指定	区分	種別	名称	所在地
40	北 本 市	有形文化財	絵画	慈恵大師画像	北本市本町 7-126
41			彫刻	銅造阿弥陀如来坐像	北本市石戸宿 3-119
42				木造観音坐像	北本市荒井 1-336
43				真福寺仁王像	北本市本町 7-126
44				木造地藏菩薩半跏像	北本市石戸 6-284
45				古文書	矢部家文書
46			歴史資料	東光寺板石塔婆群	北本市石戸宿 3-119
47				道標「大師道」	北本市本町 8-216
48				道標「これより石と舟とまち」	北本市荒井 1-222
49				花見堂廻国供養塔	北本市荒井 1-20
50		旧石戸村道路元標		北本市荒井 3-86	
51		民俗文化財	有形民俗文化財	供養塔(兼道標)	北本市石戸宿 8-64
52				山王神社御神体他石刻猿一括	北本市高尾 4-316
53				石刻絵馬「菅原道真」	北本市石戸宿 6-64
54	観音堂大絵馬			北本市荒井 1-336	
55	天神社幟			北本市石戸宿 6-64	
56	阿観堂の庚申塔			北本市荒井 3-115	
57	荒井の富士塚			北本市荒井 2-228	
58	石戸宿の天神社幟			北本市石戸宿 6-64	
59	無形民俗文化財		天神社ささら獅子舞	北本市石戸宿 6-64	
60	記念物	天然記念物	ムク	北本市石戸宿 6-64	
61			エドヒガンザクラ	北本市荒井 5-223	
62			ドウダンツツジ	北本市石戸宿 6 丁目	
63			阿弥陀堂エドヒガンザクラ	北本市高尾 6-365	
64			高尾カタクリ自生地	北本市高尾 6-320-1 他	
65	川 島 町	有形文化財	彫刻	地藏菩薩立像	川島町平沼 627
66				薬師如来坐像	川島町大字下八ツ林 586
67				木造阿弥陀如来坐像	川島町川島町吹塚 232
68				木造聖観音坐像	川島町中山 1209
69				木造阿弥陀如来坐像	川島町中山 1198
70		工芸品	鰐口	川島町大字下八ツ林 586	
71		古文書	小美濃郷検地帳	川島町上小見野 517	
72		考古資料	石棺	川島町白井沼 230	
73		歴史資料	算額	川島町下小見野 134	

3.2.8 一般環境中の放射性物質

計画地の北東約 640m の距離に位置する吉見町立東第二小学校校庭においては平成 23 年 6 月から、計画地の南約 2.5km の距離に位置する川島町立八ツ保小学校校庭においては平成 23 年 11 月から、それぞれ空間放射線量の定点測定が行われている(位置図は図 3.1-5、3-15 ページ参照)。これまでの測定結果は図 3.2-20 及び表 3.2-40 に示すとおりである。

また、計画地の北東約 10km の距離に位置する加須市環境科学国際センターにはモニタリングポストが設置され、空間線量率の常時監視が行われている。平成 24 年 4 月から平成 28 年 1 月までの空間線量率の測定結果は図 3.2-21 及び表 3.2-41 に示すとおりである。

吉見町立東第二小学校での空間線量率は 0.12~0.052 μ Sv/時の範囲にあり、川島町立八ツ保小学校校庭での空間線量率は 0.043~0.086 μ Sv/時の範囲にあり、加須市環境科学国際センターでは 0.038~0.090 μ Sv/時の範囲にあることから、「放射性物質汚染対処特措法に基づく汚染廃棄物対策地域、除染特別地域及び汚染状況重点調査地域の指定について(お知らせ)」(平成 23 年 12 月 19 日環境省報道発表資料)による汚染状況重点調査地域の指定基準である 0.23 μ Sv/時を下回っている。



1)平成 23 年 6 月、7 月の吉見町立東第二小学校の測定高さは 0.5m、以降は 1m。

図 3.2-20 吉見町立東第二小学校及び川島町立八ツ保小学校における空間線量率推移

資料:第 1 回~第 51 回県内 24 箇所の校庭等における空間放射線量の定点測定結果について 埼玉県ホームページ
及び 町内の放射線量測定結果 吉見町ホームページ

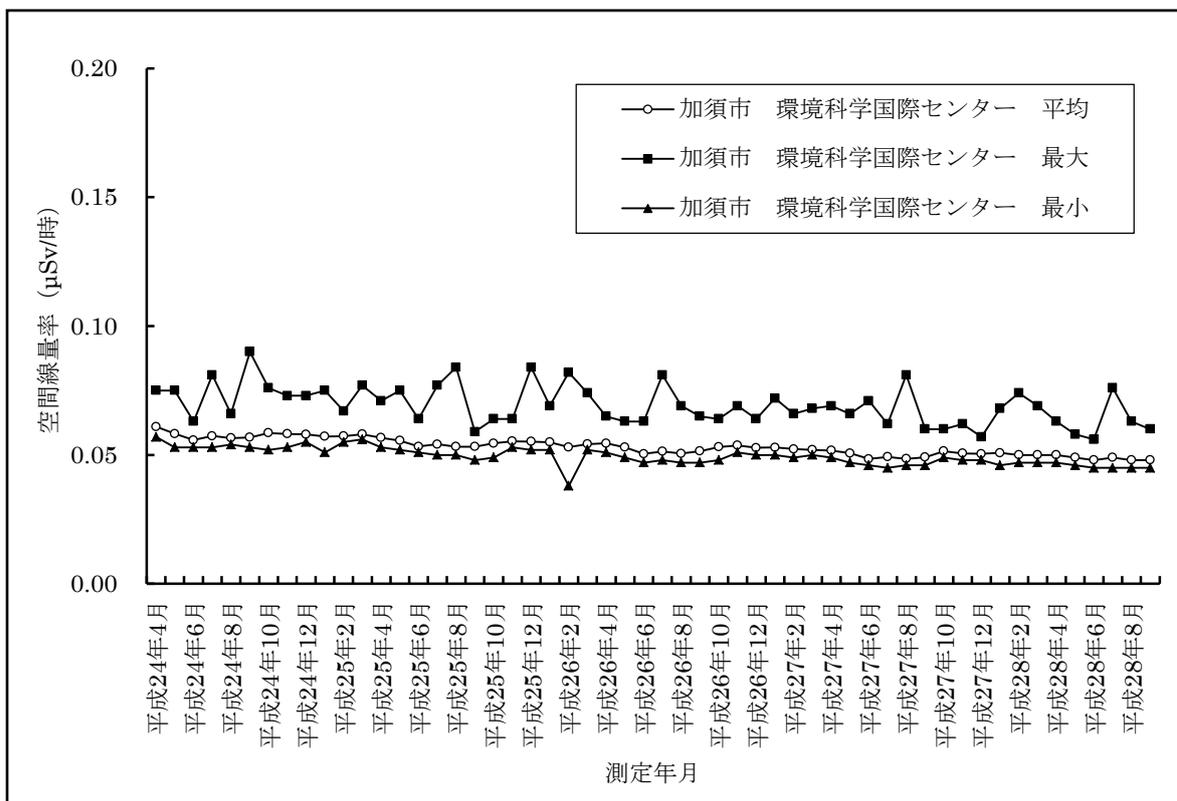
表 3.2-40 吉見町立東第二小学校及び川島町立八ツ保小学校における空間放射線量測定結果

単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$

測定年月		吉見町立 東第二小学校	川島町立 八ツ保小学校	測定年月		吉見町立 東第二小学校	川島町立 八ツ保小学校	
平成 23年	6月	(0.12)	—	平成 26年	1月	—	—	
	7月	(0.11)	—		2月	0.055	0.055	
	8月	0.11	—		3月	—	—	
	9月	0.12	—		4月	0.054	—	
	10月	0.09	—		5月	—	0.065	
	11月	0.08	0.085		6月	0.052	—	
平成 24年	12月	0.067	0.0855	7月	—	—		
	1月	0.076	0.0835	8月	0.052	0.068		
	2月	0.084	0.075	9月	—	—		
	3月	0.08	0.0815	10月	0.061	—		
	4月	0.067	0.0745	11月	—	0.075		
	5月	0.07	0.0645	12月	0.057	—		
	6月	0.056	0.065	平成 27年	1月	—	—	
	7月	0.065	0.0695		2月	0.056	0.049	
	8月	0.059	0.0605		3月	—	—	
	9月	0.061	0.0675		4月	—	—	
	10月	—	0.0685		5月	—	0.044	
	11月	0.064	0.068		6月	—	—	
平成 25年	12月	—	0.069	7月	—	—		
	1月	—	0.0665	8月	—	0.043		
	2月	—	0.0665	9月	—	—		
	3月	0.071	0.067	10月	—	—		
	4月	—	0.0615	11月	—	0.045		
	5月	0.055	0.055	12月	—	—		
	6月	—	0.0535	平成 28年	1月	—	—	
	7月	0.069	—		2月	0.057	0.051	
	8月	—	0.061	/				
	9月	0.058	—					
	10月	—	—					
	11月	—	0.056					
12月	0.062	—						

1)平成23年6月、7月の吉見町立東第二小学校の測定高さは0.5m、以降は1m。

資料:第1回～第51回県内24箇所の校庭等における空間放射線量の定点測定結果について 埼玉県ホームページ
及び 町内の放射線量測定結果 吉見町ホームページ



1) 放射線モニタリング情報より月平均を算出。

図 3.2-21 加須市 環境科学国際センター 空間線量率推移

資料:放射線モニタリング情報 原子力規制委員会ホームページ

表 3.2-41 加須市 環境科学国際センター 空間線量率測定結果

測定年月	空間線量率(μSv/時)			測定年月	空間線量率(μSv/時)					
	平均	最大	最小		平均	最大	最小			
平成 24年	4月	0.061	0.075	0.057	平成 27年	1月	0.053	0.072	0.050	
	5月	0.058	0.075	0.053		2月	0.052	0.066	0.049	
	6月	0.056	0.063	0.053		3月	0.052	0.068	0.050	
	7月	0.057	0.081	0.053		4月	0.052	0.069	0.049	
	8月	0.057	0.066	0.054		5月	0.051	0.066	0.047	
	9月	0.057	0.090	0.053		6月	0.048	0.071	0.046	
	10月	0.059	0.076	0.052		7月	0.049	0.062	0.045	
	11月	0.058	0.073	0.053		8月	0.049	0.081	0.046	
	12月	0.058	0.073	0.055		9月	0.049	0.060	0.046	
	平成 25年	1月	0.057	0.075		0.051	10月	0.051	0.060	0.049
		2月	0.057	0.067		0.055	11月	0.051	0.062	0.048
		3月	0.058	0.077		0.056	12月	0.050	0.057	0.048
4月		0.057	0.071	0.053	平成 28年	1月	0.051	0.068	0.046	
5月		0.056	0.075	0.052		2月	0.050	0.074	0.047	
6月		0.053	0.064	0.051		3月	0.050	0.069	0.047	
7月		0.054	0.077	0.050		4月	0.050	0.063	0.047	
8月		0.053	0.084	0.050		5月	0.049	0.058	0.046	
9月		0.053	0.059	0.048		6月	0.048	0.056	0.045	
10月		0.054	0.064	0.049		7月	0.049	0.076	0.045	
11月		0.055	0.064	0.053		8月	0.048	0.063	0.045	
12月		0.055	0.084	0.052		9月	0.048	0.060	0.045	
平成 26年	1月	0.055	0.069	0.052		/				
	2月	0.053	0.082	0.038						
	3月	0.054	0.074	0.052						
	4月	0.055	0.065	0.051						
	5月	0.053	0.063	0.049						
	6月	0.050	0.063	0.047						
	7月	0.051	0.081	0.048						
	8月	0.051	0.069	0.047						
	9月	0.051	0.065	0.047						
	10月	0.053	0.064	0.048						
	11月	0.054	0.069	0.051						
	12月	0.053	0.064	0.050						

1) 放射線モニタリング情報より月平均を算出。

資料:放射線モニタリング情報 原子力規制委員会ホームページ

3.2.9 その他環境等への負荷の状況

計画地の位置する吉見町の二酸化炭素排出量の推移は図 3.2-22 に示すとおりであり、平成 24 年度から産業部門において排出量が増加している。平成 25 年度においては、全体の排出量(327.2 千 t-CO₂)の約 76%が産業部門からの排出量となっている。

また、関係市町の二酸化炭素排出量を平成 13 年度から 4 年ごとの推移は表 3.2-42 に示すとおりである。関係市町の二酸化炭素排出量は、鴻巣市が多く、川島町が低くなっている。

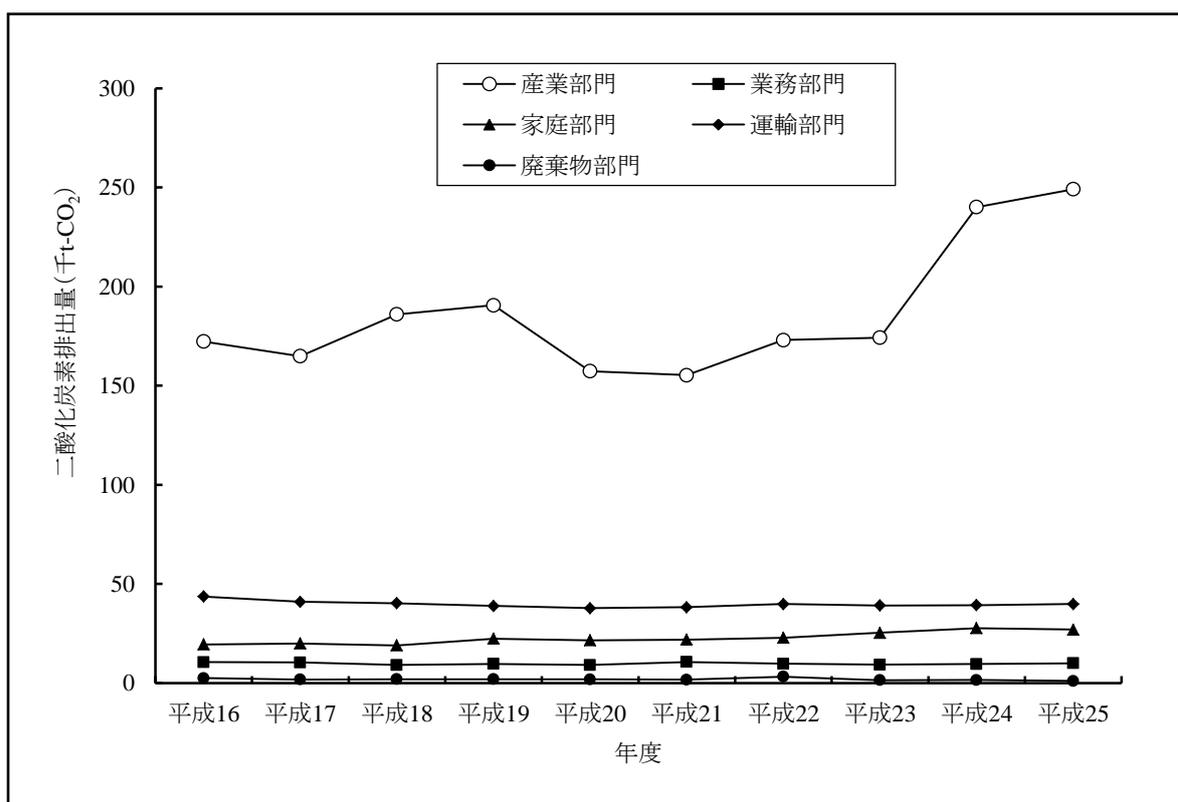


図 3.2-22 吉見町の二酸化炭素排出量推移

資料:埼玉県市町村温室効果ガス排出量推計報告書 2013 年度 平成 28 年 1 月 埼玉県

表 3.2-42 二酸化炭素排出量

単位:千 t-CO₂

市町名	区分	平成 13 年度		平成 17 年度		平成 21 年度		平成 25 年度	
		排出量	%	排出量	%	排出量	%	排出量	%
吉見町	産業部門	145.1	64.4	164.9	69.3	155.3	68.1	249.1	76.2
	業務部門	11.3	5.0	10.4	4.4	10.7	4.7	10.0	3.1
	家庭部門	17.2	7.6	20.0	8.4	21.9	9.6	27.0	8.3
	運輸部門	48.4	21.5	41.0	17.2	38.3	16.8	39.9	12.2
	廃棄物部門	3.3	1.5	1.8	0.8	1.7	0.7	1.1	0.3
	合計	225.2		238.1		227.9		327.2	
東松山市	産業部門	188.7	34.6	265.1	43.2	156.8	32.5	168.7	31.0
	業務部門	78.6	14.4	84.3	13.7	73.1	15.2	91.5	16.8
	家庭部門	91.0	16.7	101.5	16.5	107.0	22.2	134.0	24.6
	運輸部門	170.5	31.3	146.6	23.9	135.9	28.2	143.5	26.3
	廃棄物部門	15.9	2.9	15.8	2.6	9.0	1.9	7.1	1.3
	合計	544.7		613.3		481.8		544.8	
鴻巣市	産業部門	242.1	38.4	280.2	42.1	175.0	32.7	212.6	34.5
	業務部門	74.1	11.7	83.6	12.6	67.6	12.6	75.4	12.2
	家庭部門	106.6	16.9	123.7	18.6	124.6	23.3	154.6	25.1
	運輸部門	189.6	30.0	160.4	24.1	152.6	28.5	160.8	26.1
	廃棄物部門	18.6	2.9	17.3	2.6	14.8	2.8	12.3	2.0
	合計	631.0		665.1		534.6		615.8	
桶川市	産業部門	207.3	45.2	259.7	52.2	227.1	48.7	267.8	49.7
	業務部門	51.9	11.3	53.9	10.8	56.6	12.1	62.4	11.6
	家庭部門	67.7	14.8	78.3	15.7	81.3	17.4	101.8	18.9
	運輸部門	120.9	26.4	101.1	20.3	96.8	20.7	102.9	19.1
	廃棄物部門	10.7	2.3	4.7	0.9	4.9	1.0	4.4	0.8
	合計	458.4		497.7		466.6		539.3	
北本市	産業部門	67.2	23.2	55.5	20.9	227.1	48.7	267.8	49.7
	業務部門	42.8	14.8	43.8	16.5	56.6	12.1	62.4	11.6
	家庭部門	64.2	22.2	73.7	27.7	81.3	17.4	101.8	18.9
	運輸部門	106.6	36.8	88.9	33.4	96.8	20.7	102.9	19.1
	廃棄物部門	8.9	3.1	4.1	1.5	4.9	1.0	4.4	0.8
	合計	289.6		266.0		247.1		283.5	
川島町	産業部門	61.6	40.8	77.5	48.3	40.6	16.4	55.4	19.5
	業務部門	12.3	8.1	11.1	6.9	43.8	17.7	46.1	16.3
	家庭部門	17.8	11.8	20.8	13.0	73.5	29.7	90.7	32.0
	運輸部門	55.6	36.8	48.0	29.9	85.5	34.6	88.3	31.1
	廃棄物部門	3.7	2.5	3.2	2.0	3.7	1.5	3.0	1.1
	合計	151.0		160.6		149.5		178.7	

資料:埼玉県市町村温室効果ガス排出量推計報告書 2013 年度 平成 28 年 1 月 埼玉県